

4 芳沢特使の蘭印派遣と第一次提案をめぐる協議

504

昭和15年11月28日

松岡外務大臣より
在バタビア齋藤総領事宛(電報)

芳沢新代表の蘭印派遣をパプストへ通報について

付記

昭和十五年十一月三十日付松岡外務大臣より

在本邦パプストオランダ公使宛公信南一普通

第三八号

伊藤石油業者代表への便宜供与方要請

本省 11月28日後8時30分発

會商第七一號(至急)

往電第六六號ニ關シ

小林使節ノ後任トシテ芳澤元外務大臣ヲ派遣スルコトニ決定二十八日「パ」公使ニ申入濟(當方發表ハ都合ニ依リ十二月一日頃トスル予定ニ付右御含アリ度)芳澤氏ハ十二月十二日神戸發日昌丸ニテ出發ノ予定

(付記)

南一普通第三八號

昭和拾五年十一月卅日

外務大臣 松岡 洋石

在京「パプスト」蘭國公使閣下

伊藤石油代表ニ便宜供與方依頼ノ件

以書翰啓上致候陳者日本石油業者代表トシテ石油問題ニ關スル交渉ノ爲蘭印ニ出張中ノ向井忠晴氏ハ今般都合ニ依リ歸朝致スコトナリ其ノ後任トシテ三井物産會社常務取締役伊藤與三郎氏同地ニ出張致スコト相成伊藤氏ハ來ル十二月十二日神戸出帆日昌丸ニテ出發ノ豫定ニ有之候ニ就テハ同氏ノ蘭印入國竝ニ蘭印關係官民トノ交渉ニ當リテハ向井氏ニ對スルト同様待遇ヲ與ヘラルト共ニ諸事出來得ル限りノ便宜供與相成様蘭印政府ニ御傳達方可然御取計相成度候

右申進旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

505

昭和15年11月30日

在バタビア石沢(豊)総領事より
松岡外務大臣宛(電報)

芳沢代表到着までの会商中止を発表したき旨

蘭側提議について

バタビア 11月30日後発

本省 12月1日前着

會商第一九七號(大至急)

三十日「ホ」太田ヲ來訪シ吉澤氏^(芳)到着ハ十二月二十日過キ
トナリ從ツテ會商開始ハ正月トナルヘキ處其レ迄無爲ニシ
テ待ツコトハ一般民衆ノ疑惑ヲ起スヘク蘭側トシテハ此ノ
際事態ヲ明瞭トスル爲新使節到着迄暫ク會商中止トスヘキ
旨發表致度ト述ヘタルニ對シ太田ヨリ一般問題討議ハ新使
節ノ到着ヲ待ツヘキヤ又新使節ノ名ニ於テ到着前ニ爲スヘ
キヤニ付目下東京ニ請訓中ナルニ付暫ク待タレタシト答ヘ
タル處先方ハ日本側態度ヲ速ニ決定セラレタク何時迄モ待
チ得スト述ヘタルニ付恐ラク來週水曜日頃ニハ決定スヘシ
ト豫想スル旨ヲ述ヘ置キタルニ付何分ノ儀至急回電アリタ
シ尙石油「コンセツション」問題ヲ始メ一般邦人關係ノ現
ニ交渉中ノ問題モ會商開始迄引延ハス模様次第ニ濃厚ナリ

506

昭和15年12月3日

松岡外務大臣より
在バタビア石沢総領事宛(電報)

会商一時中止の発表はわが方世論に悪影響あ

るためパプストへ蘭側の自重要請について

本省 12月3日後7時発

會商第七八號(至急、機密)

貴電第一九七號ニ關シ

三日「パプスト」公使ヲ招キ水野局長ヨリ蘭側代表部ハ帝
國代表部ニ對シ一般的提案方督促シ若シ出來サレハ芳澤氏
到着マテ一時會商中止ノ聲明ヲ出シ度旨申入レタル趣ナル
カ元來一般的提案ハ全權ヲ有スル使節ノ考慮ヲ内容トスヘ
キ點多ク然モ芳澤氏「バタヴィア」着モ近キコトナレハソ
レマテ俟タレ度又會商一時中止方公表スル時ハ本會商ニ多
大ノ關心ヲ有スル日本ノ輿論ニ極メテ悪影響ヲ及ホシ延イ
テ兩國民ノ感情ヲ刺戟スル惧レアルニ付蘭側ノ自重ヲ希望
スト述ヘタル處同公使モ善ク之ヲ諒解シ早速可然取計フヘ
シト答タル趣ナリ

507

昭和15年12月10日

日蘭会商に関する松岡外相と芳沢代表との談

解事項

蘭印交渉ニ關スル松岡大臣ト芳澤使節トノ諒解事項

(昭和十五、十二、十、決定)

一、帝國トシテハ究極ニ於テ蘭印ニ於ケル政治的權力ノ樹立ヲ希望スル次第ナルモ斯ノ如キ究極ノ目標ハ兵力ヲ行使シ又ハ之ヲ行使スル決意ヲ以テ交渉スルニ非サレハ達成シ得ス

然ルニ蘭印ニ對シ帝國カ兵力ヲ行使シ得ルカ爲ニハ日支、日蘇、日米等ノ關係ノ全面的調整等ニ依リ現在ヨリ著シク狀勢カ我方ニ有利ニ轉換スルニ非サレハ之ヲナスコト不可能ナリ

二、若シ之等ノ狀勢ノ變化(日支全面和平ノ實現、日蘇國交調整ノ關係、對米關係ノ處理、歐洲戰況ノ有利ナル發展等)アリタル際ハ此ノ狀勢ノ迫力ニ依リ敢テ兵力ヲ行使セシメテ交渉ニ依リ前記一、ノ如キ究極ノ目的ヲモ達成シ得ヘキカスノ如キ情勢ノ變化ナキ限り如何ナル方法ニ於

テ交渉スルモ前記一、ノ如キ究極ノ目的ハ之ヲ達成スルコトハ不可能ナリ

三、小林使節ハ石油問題ニ關シ蘭印側ト交渉ヲ遂ケタルモ其ノ他ノ一般問題ニ付テハ未タ何等交渉ニ着手シ居ラサル處前記ノ如キ國際情勢ノ有利ナル展開ナキ限り現狀ニ於テ交渉ニ依リ達成シ得ヘキ限度ハ

(イ)帝國ノ必要トスル蘭印產物資ノ取得(此ノ中石油ハ既ニ小林使節ニ於テ大体目的達成済ナルモ今後一般問題交渉ノ道程ニ於テ石油ニ關スル交渉可能ノ場合ニハ更ニ幾分ナリトモ追加方努力スルコト)

(ロ)入國企業等ニ關スル帝國ノ要望

ヲ「ギブ・アンド・テーク」ノ範圍ニ於テ出來得ル限り達成センコトニ努ムルノ外ナク之レトテ情勢カ現在以上皇國ニ不利ナル發展ヲ爲ササルコト及相當「ジエネラス」ナル「ギブ」ヲ爲スコトヲ前提トスヘシ

四、若シ交渉繼續中ニ急速ニ國際情勢ノ有利ナル進展アリタル際ハ右情勢ヲ利用シテ交渉ヲ有利ニ轉換セシムヘキハ勿論ナルモ然ラサル限り現段階ニ於ケル交渉ハ前記三、ノ限度及前提ニ於テ執拗ニ交渉シ可及的ニ其ノ目的ノ達成

ヲ計ルニ在リ

508

昭和15年12月20日

在バタビア石沢総領事より
松岡外務大臣宛(電報)

横浜正金銀行・ジャワ銀行間に日蘭印金融協

定の締結承認方請訓

バタビア 12月20日後発

本省 12月20日後着

會商第二一七號(至急)

十九日爪哇銀行ヨリ最後案ヲ提出シ來レルカ右ハ本邦側要
求ヲ實質的ニハ大半容認セルモノニテモアリ此ノ際其ノ儘
承認スルコト得策ナリト思考ス

先方ハ明年一月一日ヨリ實施方從テ來ル二十三、四日迄ニ
一切ノ手續完了方希望シ居ルニ付右御含ミニテ促進方御配
慮相成度シ

509

昭和15年12月23日

松岡外務大臣より
在バタビア石沢総領事宛(電報)

日蘭印金融協定の締結承認方回訓

第九五號(大至急、機密)

一、貴電第二一七號ニ關シ

關係省ト協議ノ結果正金及爪哇銀行間ノ金融協定ヲ承認
セルニ付右調印ノ上ハ貴電第二二〇號ノ通發表差支ナシ
ニ、尙本邦ニ於テハ當業者ノ參考トスヘキ點ニ付テハ大藏省
當局ヨリ適當ナル説明ヲ爲スコトトセルニ付御承知相成
度

三、正金ニ達シタル情報ニ依レハ蘭印側ハ更ニ爲替管理法ノ
運用ヲ強化スル模様ナル處斯クテハ折角ノ本協定モ實質
的ニハ其機能ヲ減殺スルコトトナル次第ナルニ付日蘭印
間ノ輸出入ヲ阻害スルカ如キ措置ヲ強化セサル様此機會
ニ蘭印側ノ注意ヲ喚起シ置カレ度

510

昭和15年12月24日

在バタビア石沢総領事より
松岡外務大臣宛(電報)

日蘭印金融協定調印について

付記

昭和十五年十二月二十四日調印

日蘭印金融協定仮訳

本省 12月23日後6時30分発

バタビア 12月24日後発
本 省 12月24日後着

會商第二二五號(大至急)

往電第二一九號二關シ

調印ハ本日正午無事終了セル旨報告アリタル處蘭側トシテハ本件詳細總督及本國政府ニ報告ノ要アルニ付發表ハ内容大綱(蘭側案ハ今川ヨリ本店ヘ電報ノ筈)モ往電第二二〇號内容モ來ル二十八日(東京ハ午後零時半、「バタヴィア」ハ午前十一時)トシタキ旨「ホ」通商局長ヨリ申出アリタルニ付右様御取計相煩度シ

尙蘭側發表ハ孰レモ情報部長ニ於テ之ヲ行フ趣ナリ爲念

(付記)

日蘭印金融協定文假譯

一、横濱正金銀行ハ爪哇銀行ニ盾貨ヲ以テ、爪哇銀行ハ横濱正金銀行ニ圓貨ヲ以テ、當座勘定ヲ設立ス。右勘定ハ何レモ無利息トス

二、兩行間ノ取引ハ現物爲替ノ賣買ニ限ル

三、(イ)爪哇銀行ガ圓資金ヲ必要トスル場合ニハ、爪哇銀行ニ

於ケル横濱正金銀行勘定ノ貸方殘高ガ二百萬盾ヲ超エザル限り、何時ニテモ其必要トスル圓資金額ヲ、合意ノ爲替相場ニヨリ換算セル盾對價ヲ以テ横濱正金銀行勘定ヲ貸記スル事ニヨリ、調達シ得ルモノトス

右横濱正金銀行勘定殘高ガ二百萬盾ニ達シタルニ不拘、爪哇銀行ガ更ニ圓資金ヲ必要トスル場合、横濱正金銀行ヨリ要求アラバ右圓資金額ニ對シ盾ニ代フルニ米弗ヲ以テ支拂フモノトス

(ロ)横濱正金銀行ガ盾資金ヲ必要トスル場合ニハ、横濱正金銀行ニ於ケル爪哇銀行勘定ノ貸方殘高ガ四百五十萬圓ヲ超エザル限り、何時ニテモ其必要トスル盾資金額ヲ、合意ノ爲替相場ニヨリ換算セル圓對價ヲ以テ爪哇銀行勘定ヲ貸記スル事ニヨリ、調達シ得ルモノトス

但シ爪哇銀行勘定殘高ガ四百五十萬圓ニ達シ、爪哇銀行ヨリ要求アル場合ニハ横濱正金銀行ハ其必要トスル盾資金額ニ對シ圓ニ代フルニ米弗ヲ支拂フモノトス

四、兩協定銀行ノ勘定ニハ第二條、第三條ニ規定セル(爲替)賣却代金ノミヲ振込ミ得ルモノトス

但シ本協定締結ノ際横濱正金銀行ガ有スル盾資金、爪哇

銀行ガ有スル圓資金ハ相互承認セル分ニ限り第一條規定ノ勘定ニ振込ミ得ルモノトス

五、第三條ニ記載ノ盾對圓、圓對盾ノ取引ヲ行フ目的ヲ以テ、爪哇銀行ハ橫濱正金銀行ノ要求アリタル場合ハ百圓ニ付キ四四盾三〇ノ相場ヲ以テ盾ヲ對價トシテ圓ヲ買入レ、又橫濱正金銀行ハ爪哇銀行ノ要求アリタル場合ハ百圓ニ付キ四四盾三〇ノ相場ヲ以テ盾ヲ買入ルモノトス

六、(イ)第三條(イ)ノ規定ニヨリ爪哇銀行ガ盾ニ代ヘ米弗ヲ對價トシテ圓資金ヲ調達スル場合、橫濱正金銀行ハ百圓ニ付キ二十三弗五十仙ノ相場ヲ以テ爪哇銀行ヨリ米弗ヲ買入ルモノトス

(ロ)第三條(ロ)ノ規定ニヨリ橫濱正金銀行ガ圓ニ代ヘ米弗ヲ對價トシテ盾資金ヲ調達スル場合、爪哇銀行ハ百弗ニ付キ一八八盾五〇ノ相場ヲ以テ橫濱正金銀行ヨリ米弗ヲ買入ルモノトス

七、爪哇銀行ハ橫濱正金銀行ニ於ケル自己勘定ノ貸付圓貨殘高ガ第三條(ロ)規定ノ限度ヲ超過セル場合、該超過額ヲ對價トシテ廿三弗五〇仙ノ相場ヲ以テ橫濱正金銀行ヨリ米弗ヲ買入レ得ルモノトス、橫濱正金銀行ハ爪哇銀行ヨリ

右要求ヲ受ケタル場合之ニ應ズル事ヲ要ス、橫濱正金銀行ハ爪哇銀行ニ於ケル自己勘定ノ貸方盾貨殘高ガ第三條(イ)規定ノ限度ヲ超過セル場合、該超過額ヲ對價トシテ一八八盾五〇ノ相場ヲ以テ爪哇銀行ヨリ米弗ヲ買入レ得ルモノトス、爪哇銀行ハ橫濱正金銀行ヨリ右要求ヲ受ケタル場合之レニ應ズルコトヲ要ス

八、橫濱正金銀行ニ於ケル爪哇銀行勘定圓貸方殘高ト、爪哇銀行ニ於ケル橫濱正金銀行勘定盾貸方殘高トハ兩協定銀行合意ノ上、第五條規定ノ相場ニヨリ其一部又ハ出來得ル限りノ範圍内ニ於テ相殺スル事ヲ得

九、第五條第六條ニ記載スル相場ヲ變更ス可キ場合竝ニ本協定終了ノ場合、夫々爪哇銀行ノ有スル圓資金及橫濱正金銀行ノ有スル盾資金ハ現行協定對米相場ニヨリ清算シ若クハ(場合ニ應ジ)盾對圓相場ニヨリ相殺スルモノトス

一〇、兩國ニ於テ建ツル對銀行及對一般商業取引相場ニ關シ、協定銀行ノ一方ガ變更ヲ適當ト認メタル場合ニハ何時ニテモ兩銀行協議スルコトトシ、其協議ノ結果ヲ各當局ニ進言スルモノトス

二、本協定ハ一九四一年一月一日ヨリ一ケ年間有效トス(第

十二條ニヨリ終了スル場合ヲ除ク、但シ協定銀行相互協議ノ上三ヶ月ノ豫告ヲ以テ何時ニテモ終了セシムル事ヲ得

本協定満期三ヶ月前迄ニ協定當事者ノ何レヨリモ豫告ナキ時ハ本協定ハ引續キ效力ヲ有スルモ、其後二於テハ三ヶ月ノ一方的豫告ヲ以テ之レヲ廢棄スル事ヲ得ルモノトス

三、イ)協定銀行ノ一方ガ第五條第六條ニ規定スル相場ノ變更ヲ妥當トシ然モ新相場ニ關シ兩者意見ノ一致ヲ見ザル場合

ロ)第十條規定ノ相場變更可否ニ付意見ノ一致ヲ見ザル場合

ハ)協定銀行ノ一方又ハ双方ガ、第三條イ)ノ第二項第三條ロ)ノ第二項及第七條ニ規定セル横濱正金銀行ニ於ケル爪哇銀行勘定圓殘高竝ニ爪哇銀行ニ於ケル横濱正金銀行勘定盾殘高ノ、決濟方法ノ變更ヲ妥當ト認メタル場合

右ノ場合ニハ本協定ヲ二週間停止シ、該期間中兩當事者ハ協調ノ精神ヲ以テ當該問題ニツキ協議ヲナシ相互意思

ノ疎通ニ努力スルモノトス
若シ二週間内ニ意見ノ一致ヲ見ザル場合本協定ハ其效力ヲ失フモノトス

三、本協定ニ關シテハ協定銀行ヨリ各々政府へ通告濟ナリ。

以上

511 昭和15年12月28日 芳沢(謙吉)日蘭会商代表より
松岡外務大臣宛(電報)

芳沢代表のバタビア到着について

バタビア 12月28日後発
本 省 12月29日前着

會商第二二七號

本代表本二十八日「バタヴィア」着蘭側ハ在京「パブスト」公使ノ電報ニ基ク趣ヲ以テ本代表ニ對シ特命全權大使ニ對スル禮遇ヲ以テシ(小林使節到着ノ際ト全然同一ナリ)總督代理、「モ」經濟相、「ホ」通商局長以下多數出迎へ鄭重ナル歡迎ノ辭アリ本代表ヨリ夫々感謝ノ意ヲ表シ置キタルカ新聞記者ニ對シテハ別電第二二八號^(電報)ノ通り「ステートメント」ヲ發表シ置キタリ次イテ埠頭ニ於テ在留邦人出迎

へ蘭側儀仗兵閱兵軍樂隊ノ君カ代吹奏裡ニ出發一先ツ「ホ
テルデザンド」ニ到着ケリ

尙「モ」ノ本代表ニ語ル所ニ依レハ一月二日第一回會合同
日總督トノ會見アル筈ニ付何等心得置クコトアラハ御電示
アリタシ

本電別電ト共ニ「スーラバヤ」へ轉電セリ



512 昭和16年1月3日 芳沢日蘭會商代表より
松岡外務大臣宛(電報)

芳沢代表と蘭印總督との会谈内容報告

バタビア 1月3日前発

本省 1月3日夜着

會商第三號(至急)

往電第二二七號ニ關シ

一、二日午前「モ」ト會見本代表ヨリ目下日本側提案準備中
ニテ數日中ニハ提出ノ運ヒニ至ルヘキニ付右提案ヲ待テ
討議ヲ進メタキ旨述ヘ「モ」之ヲ諒承セリ

二、次テ石澤同道總督ヲ往訪(先方「ロ」東亞局長同席)約四
十五分ニ亘リ會見ス本代表ヨリ自分ハ日蘭印兩國經濟協

定締結ニ依リ相互ノ親善關係促進ヲ企圖スルモノニシテ
右ノ爲ニハ胸襟ヲ開キ隔意ナキ意見ノ交換ヲ行ヒタク考
へ居レル旨述ヘ次テ

(一)日本ハ歐米諸國ノ如何ナル國ヨリモ蘭印ニ對シ近接ス
ル地位ニアル處現在廣大ナル蘭印ノ大部分ハ充分開發
サレサル狀態ニ放置サレ居ルコト

(二)蘭印政府ハ日本ニ對シ何等差別待遇ヲ爲シ居ラスト言
フモ右ハ單ニ法律上然リト言フニ止マリ實際ハ然ラス
例ヘハ「スマトラ」其ノ他西部ニ於テハ多數ノ開港場
アルニ反シ日本トノ海運及貿易關係緊密ナル東部地方
ニ於テハ數年前ニ多數ノ開港場ヲ閉鎖セルコト竝ニ本
邦人ノ蘭印ニ於ケル入國營業企業上ノ許可困難ナルコ
ト

(三)蘭印側モ日本ニ對シ不滿アルヤモ知レサルカ日本モ亦
在蘭印邦人ノ經濟活動ニ對スル蘭側態度ニ不滿ヲ有ス
ル次第ニシテ之等不滿ハ速ニ改良スルノ要アルコト
(四)蘭印ニハ未開發ノ儘放置サレ居ル部分大ナルカ他方日
本ハ持タサル國ナルヲ以テ蘭印ノ豐富ナル天然資源ノ
開發ニ參加セント欲スルハ自然ノ要求ナリ其ノ期待ス

ル所ハ資源開發ノ參加ト通商促進ニアリ何等領土の野心ヲ藏スルモノニ非サルコト

(五)當國渡來ニ際シ蘭側軍用機カ二回モ本代表ノ乗船上ニ飛來シタルノミナラス市ノ内外到ル所ニ塹壕、防空壕、鐵條網ヲ見タルカ其ノ戰時的色彩濃厚ナルニハ驚キタリ斯ル狀態ハ日本ニ惡影響ヲ與ヘ面白カラサルコト

(六)最近正金ト爪哇銀行トノ間ニ爲替協定成立ノ旨了知シ欣快ト存スル處右協定ニ次キ日、蘭印兩國政府間ニ經濟協定ヲ締結セシメ得レハ好影響ヲ齎スヘキコトヲ強調セリ

右ニ對シ總督ハ政府ハ長キニ亘リ蘭印ノ開發ニ努力シ來リタルカ先ツ開發ノ容易且有利ナル地域ヨリ始メ以テ今日ニ至レル次第ニシテ既ニ相當ノ成績ヲ擧ケ居レリ次ニ將來ニ付テ言ヘハ何時如何ナル地域ヲ開發スヘキヤハ蘭印政府カ最モ良ク承知シ居ル所ナルヲ以テ適當ノ時ニ開發スヘキ意嚮ニシテ未開發ニ放置シ居ル次第ニ非ス尙廣ク外國投資ヲモ誘致スルノ政策ヲ執リタルコトハ御承知ノ通りナルカ投資セサル國アルモ夫レハ蘭印ノ責ニ非ス(二)ニ付テハ蘭印トシテハ日本ニ對シ差別待遇ヲ爲シ居ル

譯ニ非ス蘭印自身ノ貿易海運ノ爲留保ノ要アルモノヲ閉鎖セルニ過キス日本人ノ入國ニ付テモ決シテ差別待遇ヲ與ヘ居ラス外國人従業員ノ制限ハ最近教育ノ普及ニ伴ヒ毎年多數ノ卒業者ニ職ヲ與フルノ必要上制限措置ヲ執リ居ルニ過キス(五)ノ點ハ極メテ機微ナル問題ナルカ現在世界情勢ノ推移就中東亞ノ一部ニ付事態ノ成行極メテ不安ナル今日蘭印トシテハ如何ナル事態カ起ルトモ之ニ對處シ充分蘭印ノ安全ヲ確保スル爲防禦の國防強化ヲ計ルハ當然ナリト思考ス然レトモ好マシカラサル空氣ヲ除去シ經濟問題ニ關シ双方ニ満足ナル了解成立ノ爲努力シタキコトハ貴大使ト同様ナリ最後ニ蘭印自身ノ國內事情及蘭印政府ノ立場ニ付テハ充分理解ヲ得タキ旨附言セリ

三、右ニ對シ本代表ヨリ具體的問題ニ付テハ孰レ會議ノ席上蘭側代表ト討議スヘク本日ハ貴我兩國間ニ現在横タハレル惡空氣ヲ解決スルコトノ必要ヲ説明シタル迄ナリトノ趣旨ヲ述ヘタル處總督ハ友好的態度ヲ以テ交渉ノ妥結ヲ「ヘルプ」スヘキ旨ヲ答ヘタルニ付本日ハ第一回會見ノコトニテモアリ我方主張ヲ總督ニ印象付クルコトニ主眼ヲ置キ論議ハ他日ニ讓ルコトトシテ引取りタリ

513

昭和16年1月8日

在バタビア石沢総領事より
松岡外務大臣宛(電報)

蘭印の親英米・反独風潮について

バタビア 1月8日後発

本 省 1月9日前着

第二八號(極秘)

其ノ後當領ノ狀況ヲ觀測スルニ蘭印當局ノ親英米熱鼓吹ハ益々其ノ度ヲ加ヘ新聞雜誌ノ記事論說ハ勿論「ニユース」映畫「ラヂオ」放送ヲ通シ英米ノ國防經濟力ノ強大ヲ宣傳シ樞軸國究極ノ敗北ヲ豫言スルト共ニ和蘭本國ニ於ケル獨軍空爆ノ慘禍ヲ示シテ反獨感情ヲ唆リ居ル處(最近「バンドン」ニ開催セラレタル中等教員大會ニ於テ英語ハ絕對多數ヲ以テ第一外國語トシテ採用シ獨逸語ヲ廢止スルコトニ決議セラレタリ)具體的ニモ英軍ノ爲「スピットファイアー」獻金募集熾ニ繼續セラレ客年末「チャーチル」誕生日ニハ祝賀會及「プレゼント」獻金募集モ行ハレタル程ニテ英國國歌ハ種々ノ機會ニ和蘭國歌ト共ニ唱ハルル狀態ナリ殊ニ最近伊國軍力希臘及阿弗利加戰ニ失敗シ蘇聯カ「ベツサラビア」方面ニ兵力ヲ集中シ居レリ等ノ「ニユース」ハ

一般ニ英國必勝ノ感ヲ益々深メ居ルモノノ如シ

尙副總督「スピト」ハ長ク病氣引籠中ナリシ處最近漸ク執務シ得ルニ至リシヲ以テ八日着任挨拶ヲ爲往訪シ試ニ歐洲情勢ニ付質問シタルニ英國ノ頑張り愈々強シ獨逸國民ハ組織的機械的ニ動クコトニ馴サレ居リ景氣好キ間ハ強大ニ見ユルモ一度蹉跌セハ案外脆シ今回モ亦今ニ崩壞スルコト必定ナリト語レリ

~~~~~

514

昭和16年1月16日

芳沢日蘭会商代表より  
松岡外務大臣宛(電報)

### 日蘭会商の交渉順序につき合意成立について

バタビア 1月16日前発

本 省 1月16日前着

#### 會商第二二號(至急)

「十五日太田石澤同伴「モ」ヲ往訪明日我方提案ヲ一括提示シ蘭側ノ希望アル場合ハ其ノ趣旨ヲ口頭説明スヘキ旨申入レタル處「モ」ハ蘭側トシテモ日本側提案ヲ検討ノ上數日中ニ蘭印側提案ヲ提示シタシト述ヘ次テ意見交換ノ上双方提案ヲ突合セ「アゼンダ」ヲ完成シ以テ正式交

涉ヲ開始スルコトトセリ尙其ノ際本使ハ我方ハ石油問題ヲ特ニ重視シ本問題ニ付テハ向井ノ後任タル伊藤ヲシテ向井ト同一ノ資格ヲ以テ從來向井ノナシ來レルト同様貴官ト交渉セシメタキ意嚮ナリ尙我方提案中ニハ鑛業權ノ問題ニモ石油問題ハ除外シ居リ又通商關係附屬書類中ニモ石油買付問題ハ包含セシメ居ラサル次第ナリト述ヘタル處「モ」ハ蘭側ハ石油問題モ兩代表部間ニ generally ニ交渉スヘキモノト考ヘ居レリト答ヘタルニ付勿論 generally ニハ代表部間ニ交渉スヘキモ具體的竝ニ細目ニ亘ル交渉ハ伊藤ヲシテ當ラシムルコト向井ノ場合ト同様ナリト應酬セル處「モ」ハ右様ノ次第ナラハ蘭側ニモ異議ナシト答ヘタリ

二、依テ十六日石澤ヲシテ我方提案(別電)<sup>(電注)</sup>ヲ「ホ」ニ提示セシメ内容ニ關シ適宜説明セシムルコトニ打合セタリ

三、尙石油ニ付テハ過日伊藤挨拶ノ爲「モ」ヲ往訪ノ際「モ」ハ資格ヲ質シタルニ付向井ノ後任トシテ向井ト同一資格ナリト答ヘタル處「モ」ハ買油問題ハ既ニ向井トノ間ニ解決セラレ小林全權モ納得セル次第ニ付既ニ取扱完了セル次第ナリ石油鑛區ノ問題ハ兩代表部間ニ一般問

題ト一括交渉セラルヘキ筋合ナレハ一般問題ト切離シ別個ニ交渉スルコトニハ應シ難シト洩セル趣ニテ我方カ石油鑛區問題ヲ一般問題トハ別個ノ問題ニテ從來ノ交渉ノ延長トシテ行フコト得策ナリトノ見地ヨリ此ノ點ニ付先方ノ意見ヲ確メントシタルカ蘭側ハ本使トノ會談ニ於テ形式上我方主張ヲ認メタル如キモ實際ニ於テハ本件ヲ一般問題交渉上ノ駆引ニ利用スル肚ト認メラル

編 注 日本側提案は和訳文を第515文書付記として採録し、別

電(會商第二三号(英文))は省略。

~~~~~

515

昭和16年1月17日 芳沢日蘭會商代表より
松岡外務大臣宛(電報)

わが方提案を蘭側へ手交について

付 記 昭和十六年一月十六日

右わが方提案和訳文

バタビア 1月17日後発
本 省 1月17日夜着

會商第二五號

往電第二二號ノ二ニ關シ⁽¹⁾

二十六日石澤ヲシテ「ホ」ニ別電第二三號^(編注)提案ヲ手交セシメ内容ニ關シ「ホ」ノ質問ニ説明ヲ與ヘシメタル處「ホ」ハ「モ」ニ傳達ノ上成ルヘク速ニ蘭側提案ヲ提出スヘキ旨約セル趣ナリ

二、石澤「ホ」會談要領左ノ通り

「ホ」ハ全文^(前考)ニ關シテハ何等質問スルコト無ク入國問題ニ關シ過去ノ實績ヲ見ルモ日本人ニシテ從業員入國ニ關スル申請ヲ爲シタル數ハ一年三百人程度ニシテ蘭側力入國ヲ許可セサリシ割合ハ極メテ少ナリ然ルニ拘ラス千五百人以上ノ入國許可ヲ要求セラルルコトハ理解ニ苦シムカ理由如何ト質問セリ石澤ハ過去ニ於ケル日本人ノ入國希望ハ一年三百人位ノ少數ニアラスシテ實際上ノ必要上ヨリ謂ヘハ千六百三十三人ヨリモ遙ニ大ナリ唯蘭側許可數ハ極メテ少數ニ限定セラレ如何ニ申請セルモ到底許可無キカ故ニ不滿ヲ忍ヒツツ最小限度ノ數ニ差控フルノ已ム無キニ至リ居レルモノナリト反駁セリ

(D)ニ付「ホ」ハ入國稅ハ本來多數支那人ノ入國ヲ制限スル一方法トシテ設ケラレタルモノニシテ日本人ヲ目標ト

スルモノニハアラスト述ヘタルヲ以テ石澤ハ支那人入國制限措置カ日本人ニ大ナル不滿ヲ感セシムルニ至リ居ルコトハ極メテ不合理ナリ支那人ニ對シテハ別ニ方法ヲ講セラルレハ可ナルヘシト主張セリ

(三)ニ付「ホ」ハ日本人醫師カ日本人以外ノ者ニ對スル診療ニ迄立チ入ルコトヲ要求セラルル次第ナリヤト反問セルヲ以テ石澤ハ日本人ノ診療ノ爲日本人醫師ノ開業ヲ許可セラレタシトノ趣旨ナルカ尤モ希望アル向ニ對シテハ是カ診療ニモ應スヘキハ勿論ナリト答ヘタル處「ホ」ハ斯カル方面ニ迄日本人醫師ノ進出ヲ認ムルコトハ問題ニナラストノ口吻ヲ洩ラセリ

各種企業中水產業ニ關シテハ「ホ」ハ本件ニ對シテハ三點ヲ特ニ認識アリタシトテ

(イ)過去數年ニ亘リ日本人漁夫カ蘭印沿岸ニ於テ繰返シ行ヒタル行爲ハ政府官憲ハ勿論一般人ニ對シ非常ナル反感ヲ植付ケタリ

(ロ)平和ノ時代ニハ兎モ角對獨宣戰ヲ布告シ蘭印全土ニ對シ戒嚴令ヲ布キ居ル現在ニ於テハ新ニ日本人漁夫ノ進出ヲ認ムルコトニハ難色アリ

(ハ)蘭印政府トシテハ土人ノ漁業ヲ獎勵シ以テ土人ニ職ヲ與ヘ度ク考ヘ居ル次第ナレハ有望ナル漁場ハ土人漁業ノ爲留保シ置キ度キ次第ナリト述ヘタリ

右ニ對シ石澤ハ過去ノコトヲ詮索スルコトハ兩國間ノ經濟關係助長ニ貢獻スル所以ニアラス蘭印ニ於ケル日本人漁業ニ關シ今次日本側希望カ容レラルルニ於テハ日本政府トシテモ漁夫ノ銓衡、教育統制等ニ付テハ本格的ニ乗出シ蘭印官憲トノ間ニ問題ヲ生セシムルカ如キコトナカラシメ得ヘク又蘭印力戒嚴令下ニアリトハ云ヘ戰爭ノ危險アル次第第二モアラス現ニ日本人漁夫ハ何等ノ問題ヲ醸スコトナク漁業ヲ營ミ居ルニアラスヤ又土人漁業ニ付テハ其ノ競爭トナルカ如キコトハ之ヲ避クルコトニ異議ナキ次第ナレハ問題ナシト考フル旨強調セリ

通信問題(A)ニ關シ「ホ」ハ日蘭間ニハ有力ナル無線電信電話アル次第ナレハ更ニ海底電線敷設ノ必要ヲ理解シ難シト述ヘタリ石澤ハ日本力敷設セントスル海底電線ハ電話、電信、寫眞電送其ノ他ノ總テヲ兼テ居ル最新最高能率ノモノニシテ「ラヂオ」ノ缺點ヲ一層除キ得テ尙且一段ノ新シキ機能ヲ發揮シ得ルモノニシテ日蘭印間ノ將來

ニ於ケル親善助長及經濟關係ノ緊密化ヲ計ル爲ニハ是非共必要ナリ其ノ利益ハ蘭印ニトリテモ多大ノモノナルハシト説明シ置ケリ

通商問題ニ關シ「ホ」ハ別表ハ何故ニ提示ナキヤト質問セルニ付石澤ハ夫レハ既ニ準備シアルモ日本側提案ノ全體ニ對スル蘭側態度判明セサルニ之ヲ提示スルモ無意味ナリト考ヘタルカ爲ナリト答ヘタリ

三、「ホ」ハ最後ニ日本側提案ハ極メテ廣汎ニ亘リ居ルノミナラス何レモ原則的要求ニシテ斯カル要求ニ同意スルコトハ蘭印ノ主權ヲ拘束スルコトナリ同意シ難シト思考ス結局具體的ニ日本力着手セント欲スルモノカ如何ナルモノナルカラ明カニセラルルニアラスンハ諾否ヲ申述フルコトスラ不可能ナリ又斯ノ如キ廣汎ニ亘ル諸問題ヲ短期間ニ決定スルコトハ事實上不可能ニシテ如何ニ兩全權間ニ於テ努力スルモ一年以上ノ年月ヲ要スヘキヲ以テ何等カノ「ホームラ」ヲ發見シ不取敢夫レニ同意シ得ルヤ否ヤヲ決定シ詳細ニ付テハ日本總領事ト蘭印政府代表トノ交渉ニ移ス外ナカルヘキカト思考スト述ヘタルヲ以テ石澤ハ今ヤ斯カル悠長ナルコトヲ述ヘ居ル時ニアラス要

スルニ蘭側カ日本側提案ヲ鵜呑ニスレハ交渉ハ明日ニテモ終了スル譯ナレハ問題ハ蘭側ノ態度如何ニ懸ル譯ナラスヤト揶揄シタルニ「ホ」ハ苦笑シ乍ラ然ラハ蘭印側カ全面的ニ「ノー」ト回答スレハ夫レニテ問題ハ解決スル譯ニアラスヤト答ヘタル趣ナリ

編 注 日本側提案は和訳文を本文書付記として採録し、会商

第二三号(英文)は省略。

(付記)

昭和十六年一月十六日芳澤代表ヨリ蘭側ニ提出セル

覺書(假譯)——我方第一次要求

天然資源ニ富ム蘭印ノ廣大ナル領域ノ大部分ハ人口甚ダ稀薄ニシテ未開發ノ儘ナルヲ以テ廣範圍ニ亘リ開發ヲ必要トスル狀態ニアリ是等地域ノ開發ガ當ニ蘭印ノミナラス日本ニ對シテモ利益ヲ齎ラスト共ニ世界ノ福祉ニ寄與スベキコトハ言フヲ俟タサル所ナリ

事實上日本及蘭印ハ經濟的ニ相互依存ノ關係ニ在リ且日本ハ地理的ニ歐米ノ列強ヨリモ蘭印ニ近接シ居レリ從テ兩國

間ノ經濟的關係ヲ調整スルノ必要ニ大ナル重要性ヲ置カサルヘカラス日本ハ蘭印ニ於ケル天然資源ノ開發ニ對スル參加並ニ蘭印トノ貿易其ノ他ノ經濟的關係ノ増進ヲ切望スルモノナリ蘭印政府ニシテ日本ノ要望ニ應シ日本國民ノ蘭印ニ於ケル經濟的活動ニ對シ便宜ヲ供與スルコトヲ承諾セララルニ於テハ右ハ蘭印自体ノ繁榮ニモ亦大イニ寄與スベキモノナルコトハ日本ノ堅ク信スル所ナリ

上述ノ見解ニ基キ日本政府ハ蘭印政府ニ對シ次ノ如キ提案ヲ爲サントスルモノナリ

一、日本人ノ入國及ヒ其他ノ事項

(一)、入國制限ノ緩和

(A)、(B)及(C)項記載ノ者ヲ除キ日本政府ノ發給シタル旅券ヲ所持スル日本人ノ入國ニ對シ蘭印入國法ニ規定セラレタル最大限例ヘハ一九四〇年初頭ニ於テ定メラレタル一、六三三人ニ達スル迄許可セラルル様外國人勤勞條令ノ手續ヲ簡易ナラシムルコト

(B)、多數日本人ノ入國ナクシテハ急速ナル開發ヲ殆ント期待シ得サル外領殊ニ「スマトラ」、「ボルネオ」及ヒ大東部ニ於ケル開拓事業ノ爲ニ必要ナル日本人

ニ對シ入國ヲ許可スルコト

(C)、一時的滞在ノ爲ニ入國ヲ許可セラルル日本人ハ(A)項記載ノ人數ニ包含セラレサルヘキコト

(D)、入國稅ヲ廢止セラルヘキコト

(二)、開發上ノ障礙除去

事業ノ遂行及ヒ其他ノ經濟的活動上必要アル場合之ヲ阻害スルカ如キ如何ナルモノモ之ヲ除去セラルヘキコト

(三)、日本人醫師ノ診療自由

日本ニ於テ醫師(齒科醫ヲ含ム)トシテ資格ヲ有スル日本人力蘭印ニ於テ診療ノ許可ヲ與ヘラルル爲開業醫ニ對スル制限ヲ緩和セラレ度コト

(四)、日本人企業經營ノ増進

日、蘭印合辦事業力企業ノ經營形態トシテ要望セラルル場合ハ其實現ニ對シテ必要ナル援助ヲ與ヘラルヘク且智的竝ニ技術的勞働者ノ雇傭、運輸施設(鐵道、港灣、船舶等)及ヒ其他建設上必要トスル取極メニ關シ凡テノ日本人企業者ニ對シ好遇ヲ與ヘラルヘキコト

(五)、總テ日本人ノ申請又ハ要求ハ友好的精神ヲ以テ取扱

ハルヘキコト

三、各種ノ事業

(一)、鑛業

或地方(蘭印政府保留地域ヲ含ム)ニ於テ日本人ノ要望スル各種ノ鑛產物ノ開發ニ對スル許可ハ可及的急速ニ且廣範圍ニ亘リ與ヘラルヘキコト

(二)、漁業

土人漁業トノ競争ヲ惹起セサル限り領海内ニ於ケル日本人漁業ヲ許可セラルルコト、之カ爲ニ必要ナル漁船、漁夫及ヒ使用人ノ増加ヲ許可セラルルコト、且深海漁業ニ於テモ同様許可セラルルコト、漁業根據地又ハ其ノ附近ニ於テ漁業及ヒ其經營ノ爲必要ナル施設(魚市場、製氷工場、冷藏庫、油槽、魚類製造工場、漁船修理工場等)ヲ許可セラルルコト、魚類輸入港ニ對スル制限ノ撤廢、蘭印ニ於テ日本人漁業者ノ捕獲セル魚類ハ輸入稅ヲ免除セラルヘキコトヲ要望ス

三、交通及通信

(一)、日、蘭印間航空事業ノ開始

日本機ニヨル日、蘭印間直通航空事業ノ開設ヲ許可シ

且之ニ關シ日本ノ航空士ニ對シテ無線通信上必要ナル便宜ト無線ニヨル氣象通報トヲ與ヘラレ度キコト

(二)、日本船舶ニ對スル各種制限ノ撤廢

(A)、蘭印政府力既ニ日本人ニ許可シタル沿岸航海ニ關シテハ、日本船舶數ノ増加ヲ許可シ、且日本船舶ニ對スル噸數及ヒ航行範圍ノ制限ヲ廢止セラルヘキコト

(B)、日本人企業ノ爲ノ日本船舶ニ沿岸航海ノ許可ヲ與ヘラルヘキコト

(C)、日、蘭印間ノ交通及貿易促進ノ爲日本トノ直通ヲ必要ナリトスル港ハ開港場トシテ指定セラルヘキコト

(D)、日本向貨物積込ノ爲不開港地ヘノ日本船ノ寄航ヲ必要トスル場合ハ其手續ヲ簡便ニシ且出來得ル限り迅速ニ取扱ハルヘク又其ノ不開港地寄航船舶ノ噸數ニ對スル制限ヲ撤廢セラルヘキコト

(三)、日、蘭印間通信ノ改善

(A)、日、蘭印間ニ安全且能率のナル通信ヲ建設スル爲技術的ニ最新式ナル海底電線ヲ日本ノ管理下ニ敷設

スルコトニ對シ承認ヲ與ヘラルヘキコト

(B)、日、蘭印間ノ電信ニ於ケル日本語使用ノ禁止ヲ解除コト

四、營業制限

營業制限令ノ下ニ在ル倉庫業、印刷業、織布業、製氷業、護謄燠製業等ニ關スル日本人ノ請願ニ對シテハ可及的許可セラルヘキコト

五、商業及貿易

(一)、日本商品ニ對スル輸入割當ハ別表記載ノ通ニ規定セラルヘキコト

(二)、日本ハ別表記載ノ通蘭印物產ノ買付ヲ爲ス用意ヲ有ス

(三)、輸入割當ノ増加セル分ハ蘭印ニ於ケル日本輸入商ニモ下附セラルヘキコト

(四)、蘭印ニ於ケル日本輸入商ハ第三國品ヲ輸入スヘキ義務ヲ免除セラルヘキコト

(五)、蘭印ニ輸入セラルヘキ日本商品ニ對シテハ關稅及ヒ通關手續ニ於テ友好的ナル措置ヲ執ラルヘキコト

編注一 別表は提示されなかった。

二 本文書の原文(英文)は省略。

~~~~~

516

昭和16年1月18日

芳沢日蘭会商代表より  
松岡外務大臣宛(電報)

蘭側の対日意識啓発のため石沢総領事がホー

フストラーテンと懇談について

バタビア 1月18日後発

本 省 1月19日前着

會商第二六號

往電會商第二五號ニ關シ

石澤ハ「ホ」通商局長トハ前回會商當時ヨリ昵懇ノ間柄ナルヲ以テ屢會合ノ上往電第三號ノ趣旨ニ依リ啓發ニ努メ來レル趣ノ處十六日會談ニ際シテハ更ニ其ノ對日認識ヲ深メ置クコト可然ト認メ本會商ハ日蘭兩國ノ運命ニ大影響ヲ及ス重大會商ニシテ責任當局ニ於テ感情ニ因ハレ大局ヲ誤ルカ如キコトアラハ兩國間ニ大ナル摩擦ノ原因ヲ殘スコト必定ナリト思考スルニ付「モ」二次キ最重要ナル地位ニアル「ホ」カ石澤累次ノ説明ヲ篤ト咀嚼シ日蘭印經濟提携ノ必

要性ニ對スル認識ト信念ヲ深メ以テ大乘のニ善處スルコトヲ切望スル旨縷々強調セル處「ホ」モ頗ル打解ケタル態度ニテ貴意ニ添フ様最善ヲ盡スヘシ但日本側ニテモ蘭印ノ立場ト心境トヲ深く認識セラルコトヲ希望スルモノニシテ石澤限リノ含ミ迄ニ自分ノ觀察ヲ率直ニ述ヘントテ要領左ノ通り内話セリ

(イ)蘭本國官民カ相當好意ヲ持チ且信賴セル在蘭獨逸人有力者カ獨軍侵入直前態度ヲ豹變シテ反獨的(反蘭的)トナリ剩ヘ第五部隊ニ加ハリ蘭人ヲ殺戮セルコトハ夢想タモセサリシ開闢以來ノ痛恨事ナルカ其ノ後獨側ノ蘭本國人壓迫ノ近狀判明スルニ伴レテ蘭印上下ノ憤激ハ沸騰點ニ達シ一般大衆ハ獨人ト出會ヘハ卽座ニ之ヲ刺殺シ兼テ間敷キ氣分ニアリ

(ロ)之ニ反シ英國ノ和蘭人及和蘭政府ニ對スル待遇ハ鄭重ヲ極メ居ルニ付蘭印一般人ハ衷心ヨリ感謝シ英ト一蓮托生スルモ悔ナシトノ氣分強ク米ノ英國援助ニ依リ米ニ對スル感謝ノ念モ高マリ居レリ

(ハ)從テ蘭人一般ノ感情ハ此ノ際寧ロ米トモ同盟シ英米ト運命ヲ共ニスル覺悟ヲ決メ以テ國難突破ニ邁進スヘシトノ

方向ニ傾キツツアリ

(二) 乍併當館政府要路者ハ和蘭ハ歐洲ニテハ既ニ已ムナク中立政策ヲ放棄セルモ東洋ニ於テハ今以テ感情ニ走ラス中立態度ヲ堅持スルヲ賢明ナリト考ヘ居リ日本カ積極的實際的ニ獨逸ヲ援助スルカ如キ措置ヲ採ラサル限りハ和蘭獨自ノ立場ニ於テ對日關係ヲ調整シ以テ友好關係ヲ持續スヘシトノ建前ニテ進ミツツアリ

(ホ) 日本ハ英米ノ對蘭壓迫ヲ危惧スルモ英ハ和蘭人ノ對英對獨ノ感情ノ差ヲ充分承知シ居リ且對獨戰爭ノ爲ノ和蘭ノ協力振ニ對シテハ既ニ満足シ居リ又和蘭人ノ性格カ干涉及壓迫ニ對シテハ斷然反撥スヘキモノナルコトヲ百モ承知シ居ルカ故ニ英ハ其ノ對日政策ニ關聯シテ蘭印ヲ壓迫スルカ如キ愚ナル政策ヲ採リ居ラス米又同様ナリ

517

昭和16年1月23日

在バタビア石沢總領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

「大東亞共榮圈」に関する松岡外相議會演説への  
蘭印各紙の論調報告

第七一號

貴大臣ノ議會演説ハ御來示ノ通り當地通信社ヲ通シ公表方取計置キタル處二十三日附各紙ハ大々の二之ヲ掲載セリ尙右ニ關スル各紙論評ハ概シテ拒否的態度ニテ同日附「ジャバボード」夕刊ノ如キハ左ノ通り論シタリ

松岡大臣ノ演説ハ支那、露西亞、米國ノ隣接三國トノ關係芳シカラサルヲ以テ其ノ言フ所モ甚タ工合惡キハ當然ナリ即チ支那事件ノ輝シキ勝利ノ希望ハ雲散霧消セシモノノ如ク蘇聯トノ關係ハ是非トモ調整ノ要アリトナシ米國ニ付テハ終始其ノ對日態度ヲ難詰スルニ止マリ二回ニ亘リ三國同盟第三條ノ精神ヲ説明セルニ過キス地理的ニ蘭印ヨリ日本ニ遙カニ近キ比律賓ニハ何等言及セサル慎重サハ背後ニ強力ナル米國ノ存在ヲ意識スル結果ニテ注意ニ値ス人種、文化等凡ソ日本トハ相異ナル蘭印カ日本ト不可分ノ關係ニ在リトハ全ク「ノンセンス」ナリ蘭印ハ經濟的協力ニ應スル用意ハアルモ密接不可分ノ關係ヲ自稱東亞ノ盟主ヨリ強制セラルルハ迷惑ナリ兩國ノ善隣關係ハ既ニ存在シ將來モ

バタビア 1月23日後發  
本省 1月24日前着

繼續スヘク差當リ兩國間ノ關係ヲ再檢討スル要毫モナク我々ノ對内、對外政策ハ常ニ自分テ決定スヘシ

編 注 『日本外交文書 日中戦争』第一冊第338文書。

518 昭和16年1月24日 在バタビア石沢総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

松岡外相議會演説に關し蘭印經濟長官が談話  
發表について

バタビア 1月24日前発  
本 省 1月24日後着

第七二號(至急)

閣下ノ議會演説ニ關シ二十三日ノ夕刊ニ依レハ「フアンモーク」ハ「アネタ」記者ノ質問ニ答ヘテ客年十一月蘭印政府力參議會ニ於テナシタル日蘭會商ニ關スル説明(客年往電會商第一三二號末段「政府トシテ蘭印ニ於ケル特定國ノ發言權ヲ意味スル新秩序」以下)ヲ引用シタル後「蘭印輸出收入ノ九割迄ハ東亞外ノ國ヘノ輸出ヨリ得ラレ居リ從テ必スシモ蘭印トノ地理的環境カ經濟上決定的ノ要素ト看做

スヲ得ス又概シテ蘭印物産ハ世界市場性ヲ有ス「今日迄善隣關係ヲ阻害セル情勢」ナル部分ニ付テハ蘭印ハ日本トノ關係ヲ他ノ諸外國ト同様出來得ル限り増進シ來タリ昨年ノ如キハ日本ニ取り有利ナル展開ヲ示シタル次第アリ其ノ意義明瞭ナラス」ト述ヘタリ

519 昭和16年1月25日 芳沢日蘭會商代表より  
松岡外務大臣宛(電報)

松岡外相議會演説の反響に鑑みわが方提案への  
回答提出を延期するとの蘭側通報について

別 電 昭和十六年一月二十六日發芳沢日蘭會商代表

より松岡外務大臣宛會商第三三號

右演説が會商に悪影響を与えないよう日本側が發表を提議した芳沢代表ステートメント案

バタビア 1月25日後發  
本 省 1月26日前着

會商第三三號

<sup>(1)</sup>二十三日「ホ」石澤ヲ來訪シ蘭側回答ハ本日邊り提出ノ答ナリシ處松岡大臣ノ議會演説中蘭印ニ關スル部分ハ不幸ニ

シテ蘭側輿論ニ面白カラサル影響ヲ與ヘタル結果提出ヲ差控フルノ已ム無キニ至レリト述ヘタルヲ以テ石澤ハ大臣ノ演說ハ自分モ一讀セルカ御申出ノ如キ個所アリトハ思考セラレス蘭側ノ問題トセル所ハ如何ナル點ナリヤト反問セル處「ホ」ハ(イ)日本カ蘭印ヲ一方的ニ大東亞共榮圈ニ含メ之カ指導權ヲ有スル旨強調セルコト(ロ)日蘭印關係ノ根本的建直シノ要アル旨說ケルコト等ナルカ大東亞共榮圈ノ日本ノ指導權ニ付テハ曩ニ小林全權當時種々論議サレ日本釋明及共同「コンミュニケ」發表ニ依リ一段落シタル經緯アルカ今回松岡大臣カ又復本問題ヲ持出シ剩ヘ蘭印ヲ佛印、「タイ」ト同列ニ置キ恰モ日本カ總括的ニ蘭印ニ對シテモ指導權ヲ有スルカ如ク說クハ蘭印ノ承服シ得サル所ナリト述ヘタリ

石澤ハ然ラハ蘭側ハ會商ニ關スル提案ヲ提示セストノ意ナリヤト念ヲ押シタル處「ホ」ハ松岡大臣ノ演說ニ依リ既ニ決定シ居ル蘭側提案ノ内容ニ再檢討ヲ加フル必要ヲ生シタル爲提出時期ハ來週中トナルヘシトノ意ナリト答ヘタリ尙「ホ」ハ此ノ際日本側ニ於テ何等カノ形式ヲ以テ日本ハ佛印ト蘭印トヲ同列ニ置カントスルモノニ非ル旨竝ニ蘭印

ニ對シ指導權ヲ要求スルモノニ非ル旨率直ニ表明シ蘭印輿論ヲ緩和スルコト望マシト述ヘタリ

尙同夜石澤海軍長官ト同席ノ際同長官モ右ト同様ノ意見ヲ強調スルト共ニ日本ノ對蘭印政策カ對佛印政策ト相異スル點即チ日本ハ何處迄モ蘭印ノ主權ヲ尊重シ是ニ指導權ヲ及サントスル意圖ヲ有セサル點ヲ明確ナラシメ且此ノ政策ヲ實行スルモノナル事ヲ蘭印ヲシテ信セシムルハ今次會商成功ノ基礎ニテは無クシテハ結局満足ナル妥結ハ見込薄ナリト考フト述ヘ居リタルニ付石澤ヨリ適宜應酬シ置キタル趣ナルモ現地事情及會商ノ將來ヲモ考慮ノ上別電第三三號「ステイトメント」程度ノモノナラハ差支ナカルヘシト思考シ二十五日石澤ヲシテ「ホ」ト會見セシメ右案文ヲ提示シ是カ發表方ヲ協議セシムル事トセリ

### (別電)

會商第三三號

バタビア 1月26日前發  
本省 1月26日後着

"In view of some anxiety on part of Government of

Netherlands-Indies over certain passages of Mr. Y. Matsuka, Foreign Minister of Japan, which was addressed to Imperial Diet on 21st of January, I, as representative of Japanese Government, wish to make clear our viewpoint on relations between Japan and Netherlands-Indies.

All what is wished for by Japan in relations between two countries is exactly the same as was contained in joint-communique of 16th October of last year, issued after the conference of the two delegations at Soerabintanah and has never a change since.

The present economic conference has been inherited from the consideration that the furtherance and strengthening of the economic relations between Japan and the Netherlands-Indies is of vital importance for the assurance of the co-existence and co-prosperity of the two countries which is earnestly sought by Japan.

I sincerely hope, therefore, that the present conference will come to a satisfactory conclusion and wish to assure that parts of the Minister Matsuka's speech

which have reference to the Netherlands-Indies came from nothing but the same idea as above-mentioned."

~~~~~

520 昭和16年1月26日 芳沢日蘭会商代表より
松岡外務大臣宛(電報)

松岡外相議会演説をめぐる石沢総領事とホー
フストラーテンとの意見交換について

バタビア 1月26日後発
本 省 1月27日前着

會商第三六號(館長符號扱)

往電第三二二號ニ關シ

二十五日石澤ヲシテ「ホ」ヲ往訪セシメ我方ハ本件演説ニ付蘭側カ特ニ惡印象ヲ受ケタリトナシテ言懸リヲ着クルコトヲ「ジヤスチファイ」スヘキ何等ノ理由ナシト確信スルモノナルカ會商ヲ進行セシムル大乗の見地ヨリ蘭側ノ希望ヲ容レ本全權ノ名ヲ以テ「ステートメント」ヲ發シ誤解ヲ一掃セシムルコトニ付テハ協力スルニ咨ナラサル旨申入レシメ往電第三三三號案文ヲ内示セシメタル處「ホ」ハ一讀ノ上日本側好意ハ多トスルモ内容餘リニ漠然トシ居ルニ付所

期ノ效果ハ擧ケ得サルヘク寧ロ此ノ際一步ヲ進メ出來得レハ松岡大臣ノ名ニ於テ(イ)大東亞共榮圈內ニハ蘭印ヲ含マサルコト(ロ)日本ハ蘭印ニ對シ指導ヲ強要セサルコトノ二點ヲハツキリ聲明方希望ニ堪ヘスト強調セルヲ以テ石澤ハ(ロ)ニ付テハ從來ヨリ屢説明セルニ付今更問題トスル迄ノコトナカルヘク又(イ)ノ共榮圈ニ付テハ日本民族ハ東亞永遠ノ平和ヲ確立スヘキ使命ヲ有シ且右使命達成ニ必要ナル實力ヲ有スルカ上ニ指導者タルヲ自認シ居ルモノニシテ右ハ崇高ナル日本民族ノ一大理想ナレハ蘭側ヨリトヤカク言ハルヘキ筋合ニアラス但シ蘭側ニ於テスル政治問題ニ付テモ日蘭印間ニ明確ナル了解ヲ遂ケ置キ度シトノコトナレハ寧ロ今次會商ニ於テ此ノ種問題ヲモ含メ政治經濟協定締結ノ目的ヲ以テ討議スルコトトシテハ如何ト述ヘタル處「ホ」ハ稍當惑ノ様子ナリシカ結局(イ)(ロ)ニ關スル大臣聲明ノ希望ヲ撤回スルト共ニ何レ「モ」ニ報告ノ上數日中ニ回答スヘキ旨答ヘタル趣ナリ

521

昭和16年1月28日

松岡外務大臣より
芳沢日蘭會商代表宛(電報)

芳沢代表のステートメント發出に当たつては
「大東亜共榮圈」へのわが方指導權を否定する
言辞なきよう訓令

本省 1月28日後7時0分発

會商第二四號(極秘、大至急)

貴電會商第三三號ニ關シ

申ス迄モナキ儀乍ラ外部ニ發表ノ場合大東亞共榮圈ニ對スル我指導權ヲ否定スルカ如キ用語ハ絕對使用セサル様御留意相成度シ

522

昭和16年1月28日

芳沢日蘭會商代表より
松岡外務大臣宛(電報)

芳沢代表ステートメントの發出中止について

バタビア 1月28日後発

本省 1月28日夜着

會商第三九號(至急)

往電第三二號ニ關シ

「二十八日「ホ」石澤ヲ來訪シ芳澤全權「ステートメント」案文ハ蘭側ニ於テ檢討シタルモ其ノ間帝國議會ニ於

ケル松岡大臣ノ對米問題ニ對スル應答振り及日本ニ於ケル「ラヂオ」放送新聞記事等何レモ日本ハ蘭印ヲ佛印同様日本ノ所謂東亞共榮圈內ニ含メントスルモノナルコトヲ益々明カニシ居レリ斯クノ如キ狀況ニ於テ右「ステートメント」ヲ發セラルルモ何等好影響ナシト思考ス然レ共全權ニ於テ發表ヲ可トセラルルナラハ蘭側トシテハ敢テ異議ヲ挟ムモノニアラサルモ其ノ際ハ「コーエキジステンス」及「コープロスペリチー」ナル字句ハ好マシカラサルニ付別ノ言葉ヲ用ヒラルルコト望マシト述ヘタリ石澤ハ「ステートメント」ハ蘭印ニ於テ希望セラルルナラハ發表スヘシト云フ迄ニシテ貴言ノ如キ見解ヲ採ラルル次第ナラハ自分トシテハ寧ろ發表スルモ意味ナシト思考スルモ一應全權ニ報告ノ上回答スヘシト述ヘ置キタル趣ナリ

二、本使トシテモ蘭側カスル見解ナル限り聲明發表ノ要ナシト認メタルニ付石澤ヲシテ「ホ」ニ其ノ旨回答セシメ置キタリ

523

昭和16年1月29日

松岡外務大臣より
在バタビヤ石沢總領事宛(電報)

「大東亜共榮圈」における日本の指導権を説明

した松岡外相議會答弁について

本省 1月29日後8時發

第五二號

二十九日衆議院豫算總會ニ於テ「ファン、モーク」ノ談話ニ關スル所見如何トノ平川議員ノ質問ニ對シ本大臣ヨリ要領左ノ通り答辯セリ

一、大東亞共榮圈樹立ニ付我國カ指導者タラント期シテ居ルコトニ對シ或ハ霸道的ノ意味テ大東亞ヲ支配スルノテナイカトカ又甚シキハ侵略、征服ヲ夢ミテ居ルノテハナイカトノ疑惑ヲ抱ク向モ絶無テハ無イ様テアル何テモ力テ強行スルトカ又ハ征服スルトカ云フ考ヘ方ノ人カラ見レハ我民族ノ物ノ考ヘ方、我々ノ眞ノ念願ナト理解出來ナイノテモアラウ

二、指導權ト云フト誤解ヲ生スルカモ知レナイカ我々カ八紘一字ト云フ我民族ノ傳統の大理念ヲ以テ大東亞ヲ指導セント期スルコトニ不都合ナ點ハ無イ筈テアル此ノ大東亞

圈内ニ在ル諸國民、諸民族ヲシテ各々其ノ所ヲ得シムル
様努力シ指導スルコトニ對シテハ此ノ圈内ニ於ケル諸國
民、諸民族、否世界ノ何人テモ虚心ニ觀レハ結構ナコト
トシテ共鳴、歡迎スヘキテアルト思フ

何レノ強國テアラウカ若シ我民族ト同様ノ大理想ヲ抱キ
テ或地域ヲ指導シ進ンテハ世界ヲ誘導セントスルナラハ
其ノ考ヘ方ハ結構テアツテ我國力之二反對スヘキ謂ハレ
ハナイ唯此ノ場合問題ハ能力ト資格トテアツテ結局何レ
ノ國民又ハ民族力眞ニ斯ル大理想ヲ實現スル資格ト力ト
ヲ持チ斯ル大任ニ堪エルヘキカニ歸スルノテアル差當リ
大東亞圈内ニ於テ我民族ハ八紘一字ノ大理想ヲ以テ前述
ノ意義ニテ指導シヤウト云フノテアルカラ先ツ以テ此ノ
圈内ニ在ル諸民族、諸國民カ克ク我民族ノ眞意ヲ了解シ
テ此ノ聖業ニ協力センコトヲ希望スル而シテ指導トハ讀
ンテ字ノ如キモノテアリ歐米列強ト雖モ我眞意ヲ了解シ
之ニ共鳴シテ協力セントスルノヲ固ヨリ拒ムモノテハナ
イ

524

昭和16年1月31日

松岡外務大臣より
在バタビア石沢總領事宛(電報)

蘭印はいかなる国が及ぼさんとする指導權も
拒否する旨の口上書をバブスト手交について

別電

昭和十六年一月三十一日發松岡外務大臣より
在バタビア石沢總領事宛第六一号

右口上書

本省 1月31日後10時30分發

第六〇號

三十一日和蘭公使次官ヲ來訪本大臣ノ議會演說ニ關シ別電
第六一號ノ口上書ヲ手交シタルニ付次官ヨリ右演說ハ我方
ノ主張ニシテ蘭側ガ之ヲ受ケ得ズトスルモ已ムヲ得ザルコ
トニシテ別ニ之ヲ強制セントスルモノニ非ズ從テ「バタヴ
イア」ニ於ケル經濟交渉ハ全然別問題ニシテ之ニ依リ影響
ヲ受クベキモノニ非ズ政治問題ノ核心タル經濟問題サハ解
決セバ政治問題モ自ラ解決シ本邦ニ於ケル蘭印ニ關スル言
論モ自然鎮靜スベシト答ヘ置キタル趣ナリ

(別電)

第六一號

本省 1月31日後10時30分発

誤解ヲ避クル爲和蘭政府ハ最近ノ松岡外相議會演說ノ意味
ガ如何ナルモノナリシニセヨ蘭印ヲ如何ナル國ノ指導權ノ
下ニ於ケル如何ナル東亞新秩序ニ編入セントスル思想ヲモ
拒否スルモノナルコトヲ敢テ言明ス

從テ和蘭政府ガ其ノ行動ヲ右ノ如キ觀念ニ依ル指導ニ從ハ
シメ又ハ右觀念適用ノ結果ヲ容認スルモノトハ斷ジテ期待
セラルベカラズ

~~~~~

525 昭和16年2月3日 芳沢日蘭會商代表より  
松岡外務大臣宛(電報)

わが方提案への回答を蘭側提出について

付記 昭和十六年二月三日

右蘭側回答

バタビア 2月3日後発  
本省 2月3日夜着

會商第四七號(至急)  
往電第四五號ニ關シ

三日「ホ」石澤太田ヲ來訪別電第四八號<sup>(電報)</sup>蘭側回答ヲ齎シタ  
ルカ其ノ際「ホ」ノ語レル所左ノ通り

一、蘭側回答遲延ノ理由ハ日本ノ東亞ニ於ケル指導權ヲ蘭印  
ニ及ホサントスルカ如キ松岡大臣ノ演說ニ對シ蘭政府ノ  
反對ヲ當初提案ニ織込ミタルモ本提案ハ經濟問題ナルニ  
付之ヲ削除スルコト適當ナリトシ先ツ之ヲ東京ニ於テ申  
入ルコトトセル爲ナリ

二、蘭側回答中一部(主トシテ前文)ハ日本側覺書ニ對スル蘭  
側見解ヲ表示シ他ノ部分ハ今次會商ニ對スル蘭側意見竝  
ニ提案ナリ依テ日蘭双方ノ案ヲ突合セ「アゼンダ」ヲ作  
リ會談ヲ開始シタシ  
尙會商促進等ニ付テハ日本側希望ヲ聞キタル上適當處置  
シタシ

編注 蘭側回答和訳文を付記として採録し、別電會商第四八  
号(英文)は省略。

(付記)  
(假譯)

今次經濟交渉ニ關スル蘭印政府ノ地位ヲ明カニシ且起リ得ヘキ誤解ヲ避クル爲蘭側代表ハ蘭印ノ經濟政策ヲ決定スヘキ考慮ヲ玆ニ再ビ簡單ニ聲明ス

中立國又ハ非交戰國ト相互ノ通商ヲ促進スル爲經濟關係ヲ改善シ且調整セントセバ、友好的精神ヲ以テ實行セラルヘキ不斷ノ關心ヲ要スル次第ナルモ之ニ關シテ採ラルヘキ措置ハ左ノ如キ原則ニ從ハサルヘカラス

第一、ニ蘭印住民ノ福祉、進歩及解放ハ蘭印政府ノ政策ノ主要目的ナルガ故ニ住民ノ利益ト相容レサルカ或ハ彼等將來ノ發展限界ヲ不當ニ狹小ナラシムルカ如キ措置ハ之ヲ避クルコトヲ考慮セザルヘカラス

第二、ニ蘭印ノ利益ハ外國トノ經濟的關係ガ嚴正ナル無差別主義ノ上ニ維持セラルヘキコトヲ必要トス、而シテ經濟的開發ニ對スル外國ノ參加ハ和蘭王國ノ大ナル領域内ニ於ケル自給的經濟單位トシテ蘭印カ漸次形成セラル、コトヲ妨害セサルモノナルコトヲ要ス從テ如何ナル經濟的活動ノ分野ニ於テモ外國權益ノ優越的地位ノ發生ヲ許スヘカラス

第三、ニ和蘭王國ノ捲込マレタル戰爭中ハ貿易其他ノ經濟的活動カ直接又ハ間接ニ敵國ノ利益トナルコトノ防止及蘭印國防ノ安全ノ爲ニ制限ヲ受クルコトハ不可避ナルコトヲ認メサル可ラス

更ニ日本側代表ノ覺書ニ於テ第一ニ蘭印資源ノ開發ハ未ダ不充分ナリ第二日、蘭印間ノ經濟的關係ハ「相互依存」ナル言辭ノ使用ヲ正當ナラシムル程重要性ヲ有スルモノナルコトヲ意味セルモノノ如クナルモ蘭側代表ハ斯卡ル主張ハ事實ニ依テ立證セラレタルモノニ非ル如ク思惟セラルルコトヲ指摘セント欲ス、所謂外領ノ大部分ガ人口稀薄ナリトノ事實ハ尤ナレドモ外領ノ開發セサルコトハ資金勞力及企業心ノ乏シキコトニ因ルモノニ非スシテ主トシテ其包藏スル資源ノ不足ト散在的ナル性質ニ起因スルモノニシテ即チ外領ニ於ケル内國及外國資本ニ依ル若干ノ農、林、鑛業ノ成績不良ナルコトハ幾多ノ科學的開發ニ依リテ示サレタル經驗ニ徴シ右見解ヲ堅持スルモノナリ、概言スレハ蘭印ハ實際食料ノ自給ヲ爲セルノミナラス熱帶農企業ノ殆ンド凡ユル方面ニ於テ世界市場ニ於ケル供給過剩ヲ防止スヘキ生産制限ヲ爲スコトヲ必要トスル程生産ノ發達ヲ見タリ、

#### 4 芳沢特使の蘭印派遣と第一次提案をめぐる協議

又鑛產物ノ生産高ハ鑛產物埋藏量ニ比シ割合ニ多ク而シテ  
發見セラレタル鑛物ガ―鐵鑛ノ如ク其品質劣等ナル場合ニ  
於テモ―該鑛物ニ對スル需要ノ起ルコトヲ期待シ得ヘキ時  
ハ直チニ之ヲ開發ニ着手セリ然シ是レ以上開發ノ余地ナキ  
コトヲ意味スルモノニ非ス、然レドモ假令善意ノ外國民間  
資本ト智識トノ協力カ上述ノ限界内ニ於テ歡迎セラル、ト  
雖モ其開發ハ合理的經濟ノ線ニ沿フテ行ハルヘク且主トシ  
テ蘭印ノ他ノ地方ニ於ケル稠密ナル人口ト其中ニ於テ急速  
ニ増加シツ、アル教育アリ且訓練アル者ノ援助ニ依リ且彼  
等ノ利益トナル如ク實現セラルヘキモノナリ

政府ノ組織下ニ行ハル、爪哇ヨリノ農業移民ノ數カ一ケ年  
五萬人ノ水準ニ達シ然モ其數急速ニ増加シツ、アル事實ハ  
蘭印カ外國ヨリノ移民ヲ必要トスルモノニ非スシテ寧ロ經  
濟的ニ有望ナル外領ノ全地方ハ爪哇其他ニ於ケル人口壓力  
ノ緩和ノ爲ニ必要ナリトノ確信ヲ與フルモノナリ蘭印ト日  
本帝國トノ間ノ通商關係ノ重要性ニ關シテハ蘭印總輸出額  
ニ於ケル日本帝國ノ割合カ一九三〇―一九三二年ニ於ケル  
平均四・二%ヨリ一九三七―一九三九年ニ於ケル平均三・  
七四%ニ減少シタルコトヲ注意セサルヘカラス而シテ蘭印

輸入ニ於テ日本ノ割合力増加シタルコトハ事實ナルカ右ハ  
蘭印ノ第三國向輸出ニ依ル購買力ノ起生ニ俟ツ所大ナルコ  
トヲ看過スヘキニ非ス

蘭印輸出額ニ於テ支那(香港ヲ含ム)及滿洲國ノ占ムル割合  
ハ一九三〇―一九三二年ノ八・一五%ヨリ一九三七―一九  
三九年ノ三・五五%ニ減退セルカ如ク更ニ逆調ヲ示セルコ  
ト及今次戰爭ニ依リ大部分ノ歐洲市場ハ失ハレタリト雖モ  
前記ノ狀態ニ殆ント變化ナク一九四〇年一月ヨリ十一月ニ  
至ル間ノ對日本帝國輸出割合ハ五・一八%對滿支ハ三・九四  
%トナレルニ過キササルコト茲ニ斯ル輸出ノ狀態ハ蘭印ノ福  
利ハ對全世界貿易ニ依存スルモノニシテ單ナル地理的近接  
ハ大量貿易ノ原因トナリ又ハ之ヲ維持スル上ニ於テ支配的  
要素ニ非ルコトヲ證明スルモノナルコトハ銘記スヘキ事實  
ナリ

事實上輸入國ノ繁榮及其結果生スル需要力距離ヨリモ遙カ  
ニ重要ナル要素ナリトス

數字ハ明カニ經濟關係改善ノ余地アルコト及能フ限り今後  
經濟的關係ノ更ニ平常ナル發達ヲ計ルヘク凡ユル理由アル  
コトヲ示シ居レリ而シテ之ニ關シ蘭側代表ハ日本政府ノ

「イニシヤチヴ」ヲ取りタル此經濟交渉ノ機會ヲ利用シ左ノ如ク提案ス

一、日本ノ蘭印物産輸入

經濟的ニ蘭印ニトリ重要ナル蘭印物産ニシテ現在金融上其他ノ措置ニ依リ日本ヘノ輸入力阻害ヲ受ケ居ルモノヲ日本國內消費ノ爲ニ購入セラレ度右ハ就中左記物産ニ關スルモノトス

A、砂 糖

日本及滿、支ノ中從來日本ノ製糖業者ニ依リテ供給セラレタル地方ニ於テ著シク不足ス

B、珈 琲

蘭印ニ對シ相當ナル輸入割合ヲ許與セラレ度

二、圓ノ自由使用

在日和蘭商社ニ屬スヘキ圓勘定殘高ハ日、蘭間ノ經濟關係ニ於テハ合法的ナル如何ナル取引ニモ利用シ得ルコト、スルコト

三、營業ノ自由

在日和蘭國民及商社ハ支障ナク其業務ヲ執行スル爲必要ナル自由ヲ與ヘラルヘキコト

編 注 本文書の原文(英文)は省略。

本文書は、昭和二十六年六月、外務大臣官房文書課作

成「外交史料 日、蘭印經濟交渉ノ部」より抜粋。

~~~~~

526 昭和16年2月3日

芳沢日蘭会商代表より
松岡外務大臣宛(電報)

大橋外務次官が蘭国政府を否認したとの同盟

報道に關し真相回示方請訓

バタビア 2月3日後発

本 省 2月4日前着

會商第五一號(至急)

三日東京發同盟電中 understood Vice Minister Ohasi
rejected representation filed by Pabst last Friday against
New Order Greater East Asia outpointing that Japanese
Government has nothing to do with Netherlands
Government which had removed seat government to
London 云々ノ文句ハ蘭側ニ一大衝動ヲ與ヘ「リットマ
ン」情報部長ハ日本新聞記者團ニ對シ頗ル興奮セル態度ニ

テ右同盟電ノ内容カ事實トセハ會商繼續不可能ナリトノ趣旨ヲ語レル趣ナリ
本件ニ關聯シ今後問題ヲ惹起スヘシト思考セラルルニ付真相詳細御回電請フ

527

昭和16年2月4日

松岡外務大臣より
芳沢日蘭會商代表宛(電報)

大橋外務次官の發言に關する同盟報道は誤報である旨回訓

本省 2月4日後10時30分發

會商第七三號(至急)

貴電會商第五一號ニ關シ

次官會談ノ模様ハ「バタヴィア」宛往電第六〇號ノ通ニシテ同盟ノ放送ハ情報局係官ノ言ヲ同盟記者ガ間違ヘ又之ニ臆測ヲ加ヘタル結果ナルニ付右事情篤ト蘭側ヘ説明セラレ度

528

昭和16年2月5日

芳沢日蘭會商代表より
松岡外務大臣宛(電報)

大橋外務次官および石井情報局第三部長の發言は誤報である旨をホーフストラーテンへ説明について

バタビア 2月5日後發
本省 2月6日前着

會商第五三號(至急)

本五日石澤、太田ヲシテ「ホ」ヲ往訪シ會商進行方法ニ付協議セシメタル處「ホ」トシテハ我方主張通り入國企業通商問題ノ順序ニテ具體的討議ヲ爲シ其ノ間必要ニ應シ双方提案中ニアル如キ抽象的又ハ基礎的論議ヲ試ミルコトニ異議ナキモ「モ」其ノ他ニ協議スヘシ但シ本件ヲ取運フ前ニ日本政府ノ對和蘭政府態度ヲ明確ニスル必要アリトテ往電第五一號ノ件竝ニ本日ノ同盟電タル石井部長ノ外國人新聞會見談ニ對スル不滿ノ意ヲ漏シ蘭印側トシテハ日本政府ニ於テ明確ニ日本政府力在倫敦和蘭政府ヲ「リーガリー」、アインド、プラクティカリー」ニ認メル意思表示ヲ爲スコトヲ希望シ此ノ點ニ關シ「パ」公使ヲシテ東京ニ於テ折衝セシメント考ヘ居レリト述ヘタル趣ナリ
大橋次官ノ問題ニ關シテハ既ニ本使ノ名ニ於テ本使ノ受ケ

タル公報ハ同盟電ト相反スル旨ノ「ステートメント」ヲ發表シタルヲ以テ兩人ヨリ右ニテ誤解ヲ一掃シ此ノ上東京ニ於ケル交渉ノ必要全然ナカルヘク又石井部長談話モ果シテ正確ニ傳ヘラレ居レリヤ疑問ナリト種々説示ニ努メタル處「ホ」ハ釋然タラサル態度ナリシモ我方見解ハ「モ」及總督ニ取次クヘシト語り尙總督モ一般和蘭人モ本問題ニ付テハ極メテ神經過敏ナリト附言セル由ナリ

本件ハ當地評議會ニ於テ蘭印國旗問題政治組織改組問題モ起リ蘭印側ノ最急所ニ觸レル問題ナルニ付會商ヲ進捗セシメントセハ東京ニ於テ蘭印政府ヲ法律的ニモ事實的ニモ之ヲ認メル旨ヲ明カニセラルルコト然ルヘシト存ス



529 昭和16年2月6日 芳沢日蘭會商代表より
松岡外務大臣宛(電報)

日蘭會商促進のためにロンドン蘭国政府の法的地位を日本が認めている旨を何らかの形式で蘭側に表明すべき旨意見具申

バタビア 2月6日前発
本省 2月6日後着

會商第五四號(至急、極祕、館長符號扱)

⁽¹⁾大東亞共榮圈ニ關スル過日ノ議會ニ於ケル閣下ノ演說議員ノ質問ニ對スル閣下竝ニ關係大臣ノ答辯乃至新聞論調等ハ爾來當方政府及民間側ニ多大ノ衝動ヲ與ヘ其ノ結果連日當地各新聞ノ社説欄ヲ賑ハシ居ル次第ハ既ニ御承知ノ通りナル處二月五日太田、石澤「ホ」ト會見ノ際双方ノ間ニ論議ヲ戰ハシタル次第ハ往電第五三號ノ通りニテ一月三十一日ノ和蘭公使及大橋次官會見ニ關スル同盟ノ誤報ニ付テハ既ニ正誤ノ手續ヲ執リタルモ何分單ニ民間側ノ論調ノミナラス政府當局ノ言説トシテ報道セラルル以上假令通信社ノ報道ニセヨ當地ニ相當ノ反響ヲ呼起スハ當然ノコトナルノミナラス一兩日ノ如ク和蘭政府ノ資格ニ疑ヲ挾ム如キ趣旨ノ電報陸續トシテ到來スル爲和蘭側トシテハ當地ニ於ケル本使ノ「ステートメント」ノミニ依リ満足セス貴地ニ於テ和蘭公使ニ對シテモ在倫敦和蘭政府ヲ理論及實際上共ニ和蘭政府トシテ承認方ヲ要望セルモノノ如シ

蘭印政府從來ノ冷淡ナル對日態度ニ關シテハ更メテ申上クル迄モナク從テ此ノ儘推移セハ今回會商ニ對シテモ餘リ期待ヲ掛ケ難キハ勿論ニテ或ハ結局武力ニ依ルニアラサレハ

蘭印ヲ東亞共榮圈ノ一員タラシムルコト不可能ナルヤニ思考セラル但シ之カ爲ニハ我方ハ萬一ノ場合ニ備ヘ最善ノ準備ヲ整ヘ置クコト(右準備ノ中ニハ軍備ハ素ヨリ支那事變其ノ他ノ國際關係ノ調整ヲ含ム)最必要トスヘキハ勿論ニシテ若シ帝國政府ニ於テ此ノ邊ノ確信ヲ有セラルルモノトセハ素ヨリ本使ニ於テ言辭ヲ挟ムヘキモノニアラス

(2) 左リ乍ラ今日ノ所政府ニ於テ未タ右ノ如キ確信ヲ有セラレストセハ不満足乍ラ平和的經濟交渉ノ手段ニ出ツルヨリ致方ナク本使ヲ當地ニ簡派セラレタル所以ノモノ亦茲ニ存スト信セラルル次第ナルカ若シ果シテ然リトセハ政府ノ措置乃至當局ノ言論モ此ノ方針ニ即應シテ以テ當地ニ於ケル交渉ヲ出來ル丈ケ我方ニ有利ニ促進セシムルコトニ着目セラルルコト絶對必要ナリト思考ス然ルニ最近ノ事實ハ遺憾ヲ此ノ趣旨ト一致スルモノトハ認メ難ク其ノ結果一月二十三日ノ蘭側ヨリ提出スヘカリシ對案ハ漸ク二月三日ニ提出シ來リ二月五日蘭側ト太田石澤會見ノ際蘭側ニ於テ我方主張通り「アゼンダ」ノ作成ニ同意シ置キ乍ラ論議ヲ進ムルコトハ在倫敦和蘭政府ノ地位ニ關シテ日本政府ヨリ明確ナル言明ヲ得ル迄ハ取運ヒ難シト述ヘ居ル次第ニテ本使トシ

テハ蘭側カ徒ニ通信社ノ報道ニ神經ヲ惱マシ居ルコトハ甚々大人氣ナシトハ思考シ居ルモ若シ帝國政府ニ於テ當地ノ經濟交渉ヲ纏メラルル御希望ナリトセハ現ニ和蘭公使ヲ在倫敦和蘭政府ノ代表者トシテ認メラレ又此ノ基礎ノ上ニ當地ニ於ケル會商ノ交渉ヲ進メラレタル事實ニ鑑ミ在倫敦和蘭政府ヲ理論及實際上ノ政府トシテ認ムル旨ノ趣旨ヲ閣下又ハ次官ヨリ口答ニテ和蘭公使ニ通告セラルルカ若クハ議會ニ於テ議員ヲシテ質問ヲ提起セシメ之ニ對スル答辯トシテ述ヘラルルカ何等カノ形式ニ依テ和蘭側ニ満足ヲ與ヘラルコト時宜ニ適スト思考ス

~~~~~

530 昭和16年2月8日 松岡外務大臣より  
芳沢日蘭會商代表宛(電報)

大橋外務次官がパプストに対しその地位を明  
確に認め日蘭會商促進を要請について

本省 2月8日後8時0分発

會商第二七號  
貴電會商第五四號ニ關シ

八日次官ヨリ和蘭公使ノ來訪ヲ求メ蘭印政府ハ我「スポー

クスマン」ノ談話ヲ楯ニ交渉ヲ停頓セシメ居ル趣ナルガ右ニ關シ聞知シ居ラルルヤト問ヒタルニ公使ハ右「スポークスマン」ガ和蘭公使ヲ認ムル能ハズト述ベタル旨承知シ居レリト答ヘタルニ付次官ヨリ自分ハ屢々貴使ト交渉シ居ルニ拘ラズ和蘭公使ヲ認メズト云フガ如キハ「ナンセンス」ニシテ「スポークスマン」モ左様ノコトヲ言ヒタルモノトハ思ハレズ恐ラク新聞記者ノ誤報ナルベシ一月三十一日ノ貴使御申出ニ對スル日本政府ノ正式「コムメント」ハ當日自分ノ述ベタル通りニシテ其レ以外ニアリ得ズ依テ蘭印政府ガ右ノ如キ「ナンセンス」ナル報道ニ基キ意見ヲ立ツルコト無ク交渉ヲ進ムル様進言セラレ度ク若シ交渉遲延スル場合ニハ蘭印ニ對シ強硬手段ヲ主張スル分子ノ聲ヲ大ナラシメ之ガ「コントロール」ニ困難ヲ感ズルニ至ルベシト言ヒタルニ公使ハ「スポークスマン」ノ談話ハ自分モ「ナンセンス」ト思ヒ居タルガ今貴官ヨリ自分ノ考ヲ「コンファーム」サレタルコトヲ満足ニ思フト述べ前記當方申出ヲ了承シ辭去セリ

531

昭和16年2月8日

在バタビア石沢総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

蘭印政府が輸出許可制の実施に当たり錫など

十品目の対日輸出許可量を通報について

バタビア 2月8日後発

本 省 2月8日夜着

第一二六號(至急)

往電第一二三號ニ關シ

(見当ツ)

八日經濟長官ヨリ本官ニ對シ輸出許可制ノ適用ニ當リテハ各國宛輸出ヲ國內需要量ノ限度ニ限定スル方針ニシテ左記商品ニ對スル日本ノ國內需要ハ諸種ノ資料ニ基キ左ノ通り(二箇月當リ數量單位噸)見積リタルカ日本側ニ於テ右數量ノ變更ヲ希望スル場合ハ至急回報アリタキ旨公文ヲ以テ通知越セリ不取敢

錫二五〇、護謄一六五〇、「コブラ」一〇〇〇、「バーム」油八〇、「バーム」實四〇、「ジャラク」實五〇〇、胡椒二五、煙草四〇、茶一六、「ニツケル」鑛一二五〇〇「スラバヤ」、「メダン」、「メナド」へ轉電セリ

532

昭和16年2月11日

松岡外務大臣より  
在バタビア石沢総領事宛(電報)

蘭印政府通告の対日輸出許可量是不十分につ

き増量交渉方訓令

本省 2月11日後5時0分発

第九三號(極秘)

貴電第一二六號ニ關シ

一、蘭印側ノ通告量ハ「ニッケル」鑛ヲ除ク外ハ何レモ不充  
分ナルコト申スマテモナキ所ナルニ付代表携行ノ各品目  
數量ニ對シ其後數次ニ亘リテ追加セル分共悉ク買付得ル  
様御盡力相成度

二、尙錫及護謨ニ關スル最近ノ新嘉坡官憲ノ態度御參考マテ  
左ノ通申進ス

(イ) 錫ハ毎月七百屯輸出方諒解シ居タルニ客年末ヨリ輸出  
ヲ澁リ最近其半額以下ノ許可ヲ與フル狀態ナリ

(ロ) 護謨ハ毎月三千屯マテ輸出スルコトナリ居タル處之  
亦客年末頃ヨリ漸次許可澁滯本年一月ニ至リ之ヲ一千  
屯トスル旨申越セルニ付目下折角交渉中ナルモ復舊極  
メテ困難ト認ム

三、佛印ノ錫及護謨ニ付現ニ交渉中ナルモ差當り間ニ合ハス  
又泰國ノ錫ニ關シ工作セルモ取得ノ見込立タサル實情ナ  
リ

本電寫代表部へ交附アリ度

533

昭和16年2月12日

芳沢日蘭会商代表より  
松岡外務大臣宛(電報)

新聞の誤報に拘泥せず会商の促進を図るよう

ホーフストラーテン説得について

バタビア 2月12日前発

本省 2月12日夜着

會商第六三號(極秘)

貴電<sup>(1)</sup>第二七號ニ關シ(蘭印政府ノ地位ニ關スル石井部長ノ  
談話ニ關スル件)

「ホ」ハ日本側ハ「ナンセンス」ヲ往訪御來示ノ趣旨ヲ敷衍強調セル處  
「ホ」ハ日本側ハ「ナンセンス」ヲ視セラルルトモ蘭側ト  
シテハ問題カ日本側「スポークスマン」ノ言ニ端ヲ發シ  
在倫敦否認ノ印象ヲ與ヘタル報道ナルニ付「バ」公使ニ  
對スル大橋次官ノ話ノミニテ満足スル能ハス何故日本政

府ハ卒直ニ打消措置ヲ執ラレサルヤト反問セルニ付石澤ハ政府ノ正式聲明又ハ情報局ノ正式發表ナラハ兎モ角本件ハ係官ノ言ヲ同盟通信員ニ於テ誤報セル迄ナレハ正式ニ取上クル義務ナキノミナラス大橋「パ」會談ニ依リ日本政府ノ意思ハ明瞭トナレルニ付右ニテ結構ナラスヤト應酬セル處「ホ」ハ自說ヲ固執セルニ付石澤ハ蘭側ハ會商ハ經濟問題ニ限定シ政治問題ハ外交機關ニ委ヌル態度ヲ執リ我方モ之ニ同意セル次第ナレハ當地ニ於テ此ノ種問題討議ノ爲時間ヲ空費スルハ賢明ナラス政治問題ハ東京會談ニ一任シ日蘭兩代表部ハ新聞報道等ニ拘泥セス須ク會商事項ノ討議ニ専心スヘキナリト反駁セル處「ホ」ハ本件ハ蘭側ニ取り最モ根本的ナル問題タルノミナラス日本政府側ニ於テ疑惑一掃ノ措置スラ執ラレサル此ノ際貴説ニ從フ能ハス何レ「パ」ノ報告到着次第「モ」全權トモ協議シ更ニ蘭側意見ヲ開陳スヘシト答ヘタル趣ナリ

二、<sup>(2)</sup>抑々本件ハ公平ニ論スレハ領土ト人民ヲ失ヒ他國主權ノ下ニ辛フシテ形骸ヲ止ムルニ過キサル政府ヲ完全ナルモノトシテ承認セヨト要求スルコト自身力無理ナルニ付會商決裂差支無シトセハ寧ろ口堂々ト蘭側ノ誤謬ヲ指摘シ場

合ニ依リテハ蘭政府否認ヲ實行スルコトモ一法ナルヘキ處現狀ニ於テハ會商妥結ノ方向ニ努力シ我方ノ執リ得ル最大限度ノ利益ヲ確保スルコト賢明ナルヘク然リトセハ往電第五四號ノ通り蘭政府承認態度ヲ明瞭ニ示シ以テ會商ノ進行ニ資スル様仕向ケラルルコト然ルヘシト思考セラル然レトモ獨ニ對スル關係其ノ他本使ノ承知セサル其ノ後ノ事情ニ依リ本件ヲ爾ク簡單ニ處理シ難キ理由生セル次第ナラハ今後折衝ノ必要上承知シ置キタキニ付何分ノ儀至急御回電請フ

三、尙四日同盟ノ放送セル石井「スポークスマン」談中蘭側ノ問題視シ居ルモノナル部分ハ“Vice-Minister took attitude almost indicating that Dutch Government in London is competent to deal such matter”及“Japan legally recognizes Dutch Government in London but practically it's different”ナリ爲念

~~~~~

534

昭和16年2月13日

芳沢日蘭會商代表より
松岡外務大臣宛(電報)

実力行使の覚悟なく「大東亜共栄圏」の確立

を叫んでも蘭印問題の打開には効果なき旨意
見具申

バタビア 2月13日後発
本 省 2月14日前着

會商第六五號(極祕)

蘭印ト英米トノ密接ナル協調關係ハ米ノ援英積極化ト共ニ最近益々濃厚ニテ米ノ對日態度ハ直ニ蘭印ノ對日態度トナリ其ノ間日本ニ於テ一般ニ想像セラルルカ如キ差別ヲ認ムルコト困難ナリ而シテ米ノ對日態度ハ「ハル」長官ノ議會演說ヲ俟タス事實惡化スルノミナリ米國ノ大建艦計畫モ南洋殊ニ蘭印問題カ重大ナル原因ヲナシ居ルコト疑ノ餘地ナシト思考セラルルモノニシテ日米間ノ眞ノ問題ハ支那ニアラス蘭印ニアリト言フ可ク英獨戰爭ノ如何ニ拘ラス米ハ飽迄南方ニ意圖ヲ有スル日本ヲ敵視スヘク他方蘭印當局ハ自己ノ利益ヨリ打算スルモ日本ヨリ寧ロ米國ノ手ニ入ランコトヲ希望スル位ナル上米英ノ積極的援助ヲ期待シ得ル状態ノミナラス獨逸スラ簡單ニ蘭印ノ日本ノ屬領タルヲ認メサルヘシト思考シ居リ他方帝國當局ノ對米及對蘭印言論ニハ一貫セル根強サナク遂ニ吠エル犬ハ咬マストノ印象ヲ與ヘ

帝國ノ實力ヲ見縊リ出シタルヲ以テ蘭印トシテハ右米國ノ態度ニ隨從スヘキハ當然ナリ從テ米國カ對日壓迫ニ益々乗出サントスル今日不満足乍ラト雖今回會商ノ效果ヲ期待スルコト困難ナリ其ノ決裂モ只時ノ問題ナルヘク彼ノ十三品目ノ如キ我カ必需物資獲得モ遂ニ困難ニ立到ルヘシ即チ帝國トシテハ蘭印問題打開ノ爲ニハ實力的解決以外ニナク右覺悟ナクシテ徒ニ日本ノ指導權ノ下ニ大東亞共榮圈確立ヲ叫ビツツ平和的交渉ニ依ラントスルモ效果ナシト思考セラ



535

昭和16年2月15日
芳沢日蘭會商代表より
松岡外務大臣宛(電報)

日蘭會商の細目協議開始に蘭側同意について

バタビア 2月15日後発
本 省 2月15日夜着

會商第六九號

往電第六三號ニ關シ

二十五日「ホ」石澤ヲ來訪其ノ後「バ」公使トノ電報往復ニ依リ日本政府カ在倫敦和蘭政府ヲ認メ居ルコト大體判

別電 昭和十六年二月十七日發芳沢日蘭会商代表より

り松岡外務大臣宛会商第七四号

右説明案

バタビア 2月17日後發

本省 2月18日前着

會商第七三號(至急)

石澤總領事宛貴電第九三號ニ關シ(蘭印ノ對日輸出制限ニ關スル件)

一、錫、護謄、「ヒマシ」、「コプラ」及「パーム」油ノ五品目ニ付増量方蘭側ニ要求ノ手筈ナル處從來ノ交渉經緯ニ鑑ミ詳細且具體的説明ヲ爲スニ非サレハ蘭側ヲ納得セシムルコト困難ト認メラルルニ付要領別電第七四號ノ通り説明致度キ處差支ナキヤ折返シ御同電相煩度シ

二、其ノ後「コプラ」ニ付テハ三菱ヨリ同社カ客年來蘭印政府ヨリ買付ノ了解ヲ得居ルニ萬噸(關係省御承知ノ筈ナル由)ノ取引ヲ可能ナラシムル様亦「パーム」油ニ付テハ東山農事及野村ヨリ自國製產品ノ對日輸出ヲ可能ナラシムル様盡力方願出アリタルカ總領事宛貴電第八一號ハ右様事情モ御考慮ノ結果ト思考スル處兎モ角二ノ増量交

明セル旨説明ノ上會商「アゼンダ」ニ關スル話合再開ノ用意アル旨告ケタルニ付石澤ヨリ右ハ結構ナルカ話合ハ日蘭双方提案ノ全般ニ亘リ逐次行フヘキモノニシテ蘭側ノ好ム項目ノミヲ議題トスルカ如キコトニハ反對ナリト答ヘタル處「ホ」ハ之ヲ了承シ十七日石澤「ホ」間ニ入國問題ニ關シ第一回會談ヲ行フコトニ打合ヲ了セル趣ナリ

三、蘭政府承認問題ニ付テハ十三日當地新聞ニANP倫敦發電トシテ「パ」公使ヨリ更メテ蘭側代表部ハ在倫敦政府ノ命ニ依リ會商ニ當ルモノニシテ蘭印ノ地方的官憲トシテニ非サル旨申入レタル處日本政府ハ之ヲ諒トセル旨掲載セラレタル次第アリ右「ホ」ノ話ニモ鑑ミ其ノ後次官「バ」間ニ何等話合行ハレタル様察セラルル處然リトセハ此ノ種會談内容ハ其ノ都度遲滞ナク電報相成様致度

536

昭和16年2月17日 芳沢日蘭会商代表より
松岡外務大臣宛(電報)

錫・ゴムなど五品目の対日輸出増量要求に關

する具體的説明案につき請訓

4 芳沢特使の蘭印派遣と第一次提案をめぐる協議

涉妥結ノ曉利害關係者ニ對スル振り當テヲ如何ニスヘキ
ヤニ付テハ豫メ關係省ト御協議置キ相煩度シ

(別電)

バタビア 2月17日後発

本省 2月18日前着

會商第七四號(至急)

一、錫

(イ)日本ニ於テハ主トシテ罐詰用「ブリキ」板ノ製造ニ使用
セラルル處罐詰ノ國內需要激増セルノミナラス對圓「ブ
ロック」罐詰輸出モ激増(昭和十二年乃至十五年輸出數
字添付但シ支那向軍需品ノ全部ヲ包含スルモノニアラサ
ル旨附記ス)セルニ付原料タル錫ノ需要ハ急増セリ

(ロ)「ブリキ」板ハ輸入激減ニ依リ國內生産増大ノ要アリ原
料錫ノ需要ハ右事情ニ依リ更ニ増大セリ

(ハ)馬來ヨリノ錫供給不圓滑(總領事宛貴電第九三號ノ事情)
ニ護謨

(イ)日本ノ輸入ハ外貨節約方針ニ基キ最近四、五萬噸ニ制限
シ居タルモ事變前迄ハ六萬乃至七萬二千噸ヲ要シタリ

(昭和八年乃至十四年輸入數字添付)

(ロ)滿支ニ對スル護謨製品ノ輸出増大セルコト(昭和十二年
乃至十四年「ゴムタイヤ」輸出货量表添付)

(ハ)新嘉坡ノF A Qハ品質不揃ニ付良質ノ蘭印品ヲ輸入シタ
シ

三、「ヒマシ」

主產地滿洲ノ不作ニ依リ蘭印ヨリ買増ノ要アリ

四、「コプラ」及「パーム」油

(イ)日本油脂工業ノ原料ハ一九三七年度ニ於テ國內生産植物
油脂(二四二、九八三噸)及動物油脂(三三六、〇五五噸)
以外ニ尙植物油脂原料八七一、五八一噸(同年輸入數字
添付)ノ輸入ヲ必要トセリ

(ロ)其ノ後事變ノ發生ト重工業ノ急激ナル發展ニ伴ヒ油脂ノ
國內需要激増セリ

(ハ)然ルニ一九四〇年ニ於テハ國內漁油七、八萬噸ノ生産減
少ヲ見タル一方大豆、棉實等ノ滿支ノ不作及食糧轉化等
ノ爲輸入半減セル結果日本ノ油脂資源ハ約二、三〇萬噸
ノ不足ヲ來セリ

(ニ)更ニ日本ハ一九三七年ニ於テ飼料八〇萬噸強ヲ海外ニ仰

キ居タル處一九四〇年ニ於テハ米糖穀等ノ國內生産著減セル反面其ノ需要ハ増大シ更ニ輸入飼料モ滿洲ニ於ケル高粱、包米、大豆粕等ノ食糧竝ニ肥料轉化上海ヨリノ輸入穀杜絶等ノ爲約五、六〇萬噸ノ不足ヲ來シ「コプラ」糟ニ對スル需要急増セリ

537

昭和16年2月19日 松岡外務大臣より
在バタビア石沢総領事宛(電報)

蘭印の輸出許可制導入に対し対日輸出を阻害
しない旨の確約履行を要求方訓令

本省 2月19日後7時発

第一〇七號(極秘、至急)

貴電第一二三號ニ關シ

蘭印政府ハ錫、護謨、「ニツケル」鑛及其他ノ物産ニシテ我方ニ於テ買付クルモノニ對シ一律輸出許可制ヲ適用セントスルカ如ク見ユル處御承知ノ通客年中蘭側ハ右三品目ニ付我要求量ノ對日輸出ヲ阻害スルカ如キ措置ヲ執ラサル旨ノ確約ヲ爲シ又當時本邦ニ於テ買付ケントスル他ノ蘭印物産ノ對日輸出ニモ支障ヲ生セシメサル様留意スヘキ旨屢々

申出アリ從テ今次ノ輸出許可制實施ニ當リ對日輸出ニ對シテハ何等特別ノ考慮ヲ拂ヒ居ルコトト存スルモ一應經濟省ノ意嚮ヲ確メラレ何分ノ儀回電アリ度

尙本件ニ關シ當省係官ヨリ一兩日前在京和蘭商務官ニ對シ對日輸出ニ滯留ヲ來ササル様公使トモ協議ノ上善處方要望シ置キタル處公使モ之ヲ諒解シ蘭印政府ヘ進言セル趣ナリ御參考迄

本電寫代表部ヘ交附アリ度

538

昭和16年2月19日 芳沢日蘭会商代表より
松岡外務大臣宛(電報)

日蘭会商の細目協議開始について

バタビア 2月19日後発

本省 2月20日前着

會商第七八號(極秘、至急)

往電第六九號ニ關シ

十七日石澤「ホ」第一回細目會談開始石澤ヨリ本件會談ハ日蘭双方提案ノ全般ニ亘リ逐次自由討議ノ形式ニテ双方ノ意見ヲ交換且討議スルコトヲ主眼トシ討議内容ニ付テハ双

方ノ議事録ヲ突合セタル上更ニ兩代表部間ニ討議スルコトトシタキ旨述ヘタル處「ホ」之ニ同意シ直ニ入國問題ニ移リ十八日之ヲ續行入國上ノ制限緩和調査上ノ支障除去及日本人醫師開業問題ノ三項目ニ付一應ノ意見交換ヲ終了セル趣ナリ要點ハ議事録照合ノ上追電スヘシ

尙蘭側ハ特ニ會商ヲ遲滯セシメントスル態度ヲ示ササリシ趣ナリ

539

昭和16年2月21日

松岡外務大臣より
芳沢日蘭會商代表宛(電報)

細目協議では通商問題を後回しとせず他の問題と同時に並行的に討議方訓令

本省 2月21日後6時発

會商第四〇號(極秘、至急)

貴電第七八號ニ關シ

入國、企業及通商問題ヲ同時ニ討議スルニ於テハ或ハ通商關係ノ分ヲ急キ入國、企業等ニ關スル重要問題ヲ後廻シトセントスル蘭印側ノ術策ニカカル惧アリトノ御懸念ヨリ討議ノ順序ニ付深甚ノ御考慮ヲ拂ハレタルモノナルコトハ充

分承知シ居ルモノ一方重要物資ニ付テハ内地在庫量手薄ナルニ加フルニ總領事宛往電第九三號ノ二及三ノ事情アル處他方對蘭印輸出入ノ見當附カサレハ本年度物動計畫ヲ確立シ得サルト共ニ現下ノ國際情勢ニ於テハ重要物資ノ確保力焦眉ノ急務ナルニ付前記三問題ヲ併行シテ討議ニ移ス様何等機會ヲ利用セラルルコトト致度

尤モ右ノ如キ交渉方針現地ノ情勢ニ照シ極メテ不利ナリトセラルルニ於テハ其事情至急回電アリ度

540

昭和16年2月22日

在バタビア石沢総領事より
松岡外務大臣宛(電報)

対日全面禁輸が実施されれば資源脆弱な日本は長くは保たないとのホーフストラーテンの見解報告

バタビア 2月22日後発
本省 2月23日前着

第一六二號(館長符號扱)

最近「ホ」ト個人ノ資格ニテ左ノ問答ヲ行ヒタリ先方認識不足ノ點ハ是正ニ努メ置キタルカ時局柄御參考迄ニ報告ス

「石」最近ノ濠洲及和蘭新聞ハ日米危機説ヲ放送シ居ル處日米衝突カ迫リ居ル譯ニ非サレハ自分ハ其ノ眞意那邊ニ在リヤヲ了解スルニ苦シミ居レリ

「ホ」自分ハ夫レ程樂觀シ居ラス何トナレハ日本ハ佛印ニ兵ヲ入レ「タイ」ニモ勦キ掛ケ場合ニ依レハ佛印ノ南方ニ迄力ヲ及ホサント爲シ居ルニアラスヤ右ハ新嘉坡ニ對スル直接ノ脅威タルト共ニ蘭印ニ對シテモ脅威ナリ英米力之ヲ拱手傍觀スル筈無ク此處ニ日米衝突ノ可能性アリ

「石」日本ノ佛印、「タイ」ニ對スル方針ハ飽迄平和的外交交渉ニ依リ問題ノ解決ヲ圖ラントスルニ在ルカ故ニ英米カ兎ヤ角言フヘキ理由ナキノミナラス米國海軍ノ現勢力ハ進ンテ日本ヲ攻撃スルニハ不充分ナルカ故ニ日米戰爭ノ可能性ナシ

「ホ」夫ハ思ヒ上リナリ米海軍軍人ハ六週間ニテ日本海軍ヲ擊滅シ得ト豪語シ居レリ

「石」日本海軍軍人ハ若シ米海軍カ日本ヲ攻撃シ來ルカ如キ場合ニハ二週間ニシテ擊滅シ得ルコトヲ確信シ居レリ

「ホ」夫ハ暫ク別トシテ日本ノ脅威カ直接新嘉坡ニ及ハントスル時ハ同地方ヨリ日本ヘノ物資供給禁止セラルヘク又

米ノ對日輸出ハ全面的ニ禁止セラレ蘭印トシテモ背ニ腹ハ替ヘラレス之ト同一步調ニ出テサルヲ得サルヘク斯カル狀態ニ立到ラハ資源貧弱ナル日本ハ長年ヲ要セスシテ崩壊スヘシ

「石」日本ノ國力ハ斯ク脆弱ナルモノニアラス蘭カ斯克英米ト歩調ヲ共ニスルモノナリト判明セハ日本ノ對蘭印政策ハ極度ニ硬化スヘシ



541 昭和16年2月22日 芳沢日蘭會商代表より
松岡外務大臣宛(電報)

わが方代表部への海軍軍人の随員追加に対し
蘭側難色表明について

バタビア 2月22日後発
本省 2月23日前着

會商第八三號(極秘)

今般「ホ」ヨリ政府ノ訓令ニ基ク趣ヲ以テ日本側隨員中ニハ軍人ノ數甚タ多ク今次會商ニ日本軍部ノ「インフルエンス」アリトノ印象ヲ與ヘ面白カラス感シ居リタル處最近軍側隨員ノ交替ノミナラス追加セラルル傾向サエアリ蘭側ト

シテハ海軍側追加隨員二名(貴電第三六號)ハ御取止ニ致度
シト申述ヘタリ右ニ對シ當方トシテハ「テクニカルエキ
パート」ヲ必要トスル所以ヲ説明スルト共ニ常ニ日本ノ新
情勢ニ接スル必要アル旨ヲ強調シ置キタルモ客年往電第二
〇〇號ノ次第モアリ蘭側ニ對シテハ前記二名到着ノ際吉田
大尉ハ語學將校ニ立歸ラシメ其ノ他ハ現狀ノ儘トシ萬已ム
ヲ得サル交替ハ蘭側ニ承認セシムル趣旨ニテ應酬スル所存
ナルニ付御諒承請フ

542

昭和16年2月25日

芳沢日蘭會商代表より
松岡外務大臣宛(電報)

在日オランダ人の待遇改善を蘭側要望について

パタビア 2月25日後発

本省 2月25日夜着

會商第八六號

往電第七八號ニ關シ

在日蘭商ヲ中心トスル蘭側苦情及要望ニ關スル「ペ」總領
事及「ホ」談話要項(要領)

(イ)最近日本ノ排外氣分頗ル濃厚ニシテ在日蘭人カ諸種俱樂部

部ノ日本人會員ト交際スルコトサヘ不可能トナリ和蘭婦
人ニシテ日中電車内ニテ暴行ヲ受ケタル者モアリ生命財
産ノ安全感消滅シツツアリ

(ロ)日常生活ノ不自由ノ外依服、靴等^(衣カ)ノ不足ハ忍フトスルモ
「パン」又ハ麥粉、砂糖、石鹼、醫藥等頗ル缺乏シ蘭人
所有在外資金ニ依ル輸入許可方請願スルモ素氣ナク拒絕
セラルル有様ナリ蘭人トシテハ米其ノ他日本人ニ必要ナ
ル物ハ必スシモ必要トセサルニ付蘭人ニ必要ナル生活必
需品ヲ得タシト主張スル次第ナリ蘭印カ大豆及其ノ製品
ノ輸入ヲ禁止セルニ拘ラス在留日本人ノ陳情ニ同情シテ
味噌及醬油ノ輸入ヲ許可セル事實ト比較シ餘リニ不公平
ナリ

(ハ)警察又ハ憲兵ニ於テ容疑者監禁中總領事トノ面會ヲ許サ
サルハ國際禮讓ニ反ス(「スペールマン」事件例示)

(ニ)諸輸出組合ハ實績アル蘭商ノ入會ヲ許サス日本人ニ對ス
ルヨリモ高値ニ賣付ケントスル組合モアリ蘭商排撃ノ態
度強シ其ノ他營業上ノ困難苦痛ハ増加スル一方ニシテ蘭
側ニ於テハ最近已ムヲ得ス日本品ヨリ五割モ高値ノ色染
捺染及糸染綿布多量(四千萬米)ヲ米國ニ注文セル様ノ次

第ナリ

(ホ)要スルニ在日蘭商カ生活ニ不安ナク食糧ニ不自由セス且
從來同様喜テ日本品ヲ買付得ル様改善方切望ス

543
昭和16年2月26日

芳沢日蘭会商代表より
松岡外務大臣宛(電報)

通商問題の交渉方針につき意見具申

バタビア 2月26日後発

本省 2月27日前着

會商第九三號(極秘)

貴電第四〇號ニ關シ(日蘭會商交渉方針ニ關スル件)

御來訓御尤モナルモ既ニ討議開始セル今日急ニ變更スルコ
トハ先方ニ奇異ノ感ヲ與ヘ却ツテ當方ノ腹ヲ見透サレ交渉
ヲ不利ナラシムル惧アリ且又石澤「ホ」會談ハ本使「モ」
會談ノ地均トシテ荒削リノ討議ヲ毎日續行シ居ルモノニシ
テ差シテ時日ヲ要セサルモノト思料セラルルニ付一應右討
議ヲ濟マセ愈々「コンクリート」ニ談合スル時通商問題ヲ
第一ノ議題ニ供スルコト然ルヘシト存セラル尙對日制限重
要物資ニ付テハ右會談トハ別ニ隨時併行的ニ交渉シ居レリ

爲念

544

昭和16年3月3日

芳沢日蘭会商代表より
松岡外務大臣宛(電報)

細目協議で明瞭となった蘭印政府の根本態度
につき報告

バタビア 3月3日後発

本省 3月4日前着

會商第一〇一號(館長符號抜)

往電第八八號ニ關シ

石澤ハ冒頭電ノ趣旨ニ依リ「ホ」トノ會談ニ於テハ双方提
案ノ前文ニ付論議スルコトヲ見合セ第一回會談ノ劈頭ヨリ
直ニ細目ノ逐次討議ニ入り既ニ一回ニ亘リ我方提案ノ大
半ヲ議了シ殘ルハ通商關係及蘭側要求ノミトナリタル次第
ナルカ會談中屢々日蘭印ノ根本ニ付テ激論ヲ重ネタル趣ナ
ル處右ノ結果蘭印政府ノ根本態度極メテ明瞭トナリタル様
思考セラルルニ付要領左ニ報告ス

「ホ」、日本側提案ハ日本人ノ蘭印ニ於ケル經濟活動ノ現状
ニ較ヘテ餘リニモ大規模ノモノタルト同時ニ將來ニ對スル

遠大ナル計畫ヲ藏シ居リ恰モ蘭印ヲ日本ノ「コントロール」下ニ置カントスルカ如キ感アル處何故ニ斯クモ飛躍の大要求ヲ出サレシヤ蘭側トシテハ背後ニ潛ム日本側動機ニ對シ強ク疑惑ト不快ヲ感セサルヲ得ス

石澤、右ニハ二個ノ理由アリ即チ日本ハ國土狹小ナルニ一億ノ人口ト毎年百萬ノ増加人口ヲ養ハサルヘカラサルコト其ノ一ナリ支那事變ノ發展ニ伴ヒ占領地域ノ支那大衆ヲ養フノ要アルノミナラス破壊セラレタル諸施設復舊ノ責任ヲ負フニ至レルコト其ノ二ナリ右目的達成ノ爲ニハ日滿支ニ於ケル生産力ノ擴充ト之ニ要スル多量資源ノ迅速、安價安全ナル獲得ヲ不可缺トシ共ニ日滿支ニ無キ南洋ノ農、工、水產資源ヲ必要トス然ルニ英米ハ日本ノ對支政策遂行妨害ノ爲本國及植民地ニ於ケル資源ノ對日輸出ヲ停止セントスルニ至レリ依テ日本ハ熱帶諸國中最モ安全便利資源豐富ナル地域ニ貿易企業ノ發展ヲ計ラント欲スル次第ナリ然ル處蘭印ハ地理的二近距離ニ位スルノミナラス傳統的中立政策ヲ以テ終始シ英米ノ如ク日本ノ對支政策ニ干渉スルコトナキ國柄ナルニ付日本官民ハ安心シテ其ノ資本技術勢力ノ大部分ヲ蘭印ニ集中シ得ル譯ニシテ斯クシテ蘭印ノ開發ニ參

加シ且兩國ノ提携ヲ緊密ナラシメタシト考フルニ至レリ之日本側提案カ相當大規模ナル所以ナリ

「ホ」、御説明ニ依リ日本側提案ノ動機ハ理解シ得タルモ蘭印トシテハ飽迄其ノ獨立性ヲ主張スルモノニシテ蘭印ヲ打ツテ一丸トスル自主的經濟機構ノ確立ニ依リ其ノ繁榮ヲ計ラント欲スルモノナリ從テ外國ノ政治的勢力ノ波及ヲ許容シ難キハ勿論外國經濟勢力ノ進入特ニ右カ蘭印經濟機構ヲ或程度迄左右シ得ル程度ニ及フカ如キハ絕對ニ許容シ難シ石澤、然ラハ蘭印居住日本人ノ經濟活動ハ現狀ニ留メ今日以上ノ發展ヲ許サストノ方針ヲ固執セラレントスルモノナリヤ

「ホ」、抽象的且遠大ナル要求ヲ原則的二承認セハ終ニ日本人ノ無限ノ發展ヲ認メサルヲ得サルニ至ルヘキニ付斯ル蘭印ノ主權ヲ將來ニ向ツテ拘束スルカ如キ約束ハ與ヘ得ストノ意味ナリ日本人企業家カ具體的計畫ヲ立テテ申出ツル場合ハ充分檢討ノ上右カ蘭印ノ利益トモナリ且蘭印ノ經濟機構ニ對シ何等ノ脅威ヲ及ホササルモノナラハ右申出ヲ許可スルニ吝ナラス一概ニ日本人ノ企業進出ヲ排斥セントスルモノニアラス

石澤、我方提案ハ右様ノ點モ考慮シ開發濟ノ爪哇ニ付テハ多キヲ求メス外領ニ對スル進出許容ヲ要望セル次第ナリ外領ハ地域廣大人口稀薄無開發部分多キ次第ニ付日本人カ相當發展スルモ蘭印全體ノ經濟機構ニ脅威ヲ與フルカ如キコトハ起リ得ス石油ニ付テ觀ルモ蘭側ハ英米ニ對シ大規模ノ企業ヲ許シ居ル處右ヲ以テ脅威トハ認メ居ラサルニアラスヤ日本人企業ニ對スル今次我方要求ヲ認メタル場合ニ於テモ資本ノ點ヨリ考ヘ一朝一夕ニ英米ノ石油事業ノ如ク大發展ヲ遂クル譯ニモアラサルニ付蘭側トシテハ杞憂ノ必要ナシ

「ホ」、石油ニ於ケル英米ノ發展ハ過去ノコトニシテ之逆モ一九一九年ノ鑛業法改正ニ依リ統制ヲ強化セリ要スルニ今後ハ企業商業等萬般ノ經濟活動ハ蘭印人(土人ヲ含ム)ヲシテ之ニ當ラシムヘク毎年多額ノ助成費ヲ計上シ居ル事情ニシテ外國人ノ進出ハ最少限度ニ留メタキ方針ナリ

石澤、蘭印ノ尨大ナル面積資源及蘭印人ノ開發能力大ナラサル點等ニ鑑ミ政府ニ於テ如何ニ努力セラルルモ百年河清ヲ待ツニ等シカルヘシ假令外國人ノ企業活動ヲ許スモ右方針ノ遂行ヲ困難ナラシムルカ如キコトハ起リ得ス然ルニモ

拘ラス日本人ノ進出ヲ阻止ストセハ夫レハ天與ノ大資源ヲ私スルモノニシテ非文明的態度ト謂フ外ナシ

「ホ」、悠久ナル國家ノ生命ヨリ觀レハ百年二百年ハ問題トスルニ足ラス政府トシテハ何世紀ヲ費スモ蘭印人ノ手ヲ以テ開發シタキ意嚮ナリ外國人ニ對シテハ之ヲ補フ意味ニ於テ役立ツ企業ナルカ又ハ蘭印人ノ手ヲ以テシテハ出來得サル事業ナルカ若クハ當該國ニ於テ其ノ產物ヲ購入シ吳ルルニアラサレハ事業トシテ成立セサルモノナルカ何レカノ場合ニ於テハ外國人ノ企業進出ヲ法規ノ範圍内ニテ許容セントスルモノナリ尙此ノ際特ニ強調シ置キタキハ蘭印カ英ト同盟シ生死ヲ賭シテ獨ト戰ヒツツアル此ノ際日本ノ對南政策ノ推移殊ニ佛印及「タイ」ニ對スル實力行使ノ氣配、東亞共榮圈思想今後ノ發展振、日本ニ於ケル歐米人排擊態度ノ強化、蘭印ニ於ケル檢閲及書類押收ノ結果判明セル日本人ノ對蘭印不穩態度等ヲ眞劍ニ考慮スル時ハ日本人ノ大規模ナル進出ハ今日直ニ之ヲ認ムルコト到底不可能ナルコト是ナリ

石澤⁽³⁾、蘭側カ對日猜疑心ヲ深メ居ルハ本官着任以來各方面トノ接觸ニ依リ明瞭トナレルカ右カ如何ニ根據ナキヤヲ

縷々説明スルモ蘭側之ヲ信セサルハ甚タ遺憾ナリ乍併一方日本ニ於テモ蘭印ハ三國同盟成立以來特ニ排日的トナリ日本人ノ進出ヲ拒否スルノミナラス遂ニハ英米ニ追隨シテ對日「エンバーゴ」ノ舉ニモ出テ兼不問敷トノ疑惑深マリツツアリ蘭側ノ猜疑ト警戒強マルニ正比例シテ日本ノ疑惑モ深マルヘク此ノ儘ニ推移セハ不幸ナル大衝突ヲ來ス外ナシト思考ス蘭側力大政治家ノ態度ヲ以テ自國民族ノ立場ノミニ拘泥セス近隣他民族ノ動向ヲモ洞察シ遅キニ失セサル裡ニ協調ヲ圖リ以テ無用ノ摩擦ヲ避クル様協力方切望ニ堪エス

「ホ」、對日關係ハ獨自ノ立場ニ於テ決定スルモノニシテ英米追隨ノ意嚮ナシ然モ英米人ハ蘭印攻略ヲ夢想タモナシ居ラサル次第ナレハ蘭人トシテハ萬事氣ヲ許シ居ルニ反シ日本ノ空氣ニ對シテハ警戒セサラントスルモ能ハス今次會商ニ於テ大局的調整方努力ノ要アリトノ意見ハ同感ナルカ日本力蘭印ノ獨立性ヲ無視シ其ノ要求ヲ強要セントセラルル次第ナラハ一戰ヲ賭スルモ獨立ヲ防衛セサルヘカラストハ蘭印人一般ノ牢乎タル決意ナリ

石澤、蘭側猜疑心及右ニ基ク方針カ貴説ノ如ク牢乎タルモ

ノニシテ斯ル見地ヨリノミ日本ノ要求ヲ取扱ハルルモノナレハ其ノ結果カ日本ニトリ不満足極マルモノナルコトハ明瞭ナレハ日本トシテハ日蘭印關係ヲ再検討スルノ必要ニ迫ラルヘシ

「ホ」、必スシモ猜疑心ノミヲ以テ日本側要求ニ對セントスルモノニハアラサルモ世界情勢混沌タル此ノ際ナレハ具體的ニ即時着手御希望ノ問題アラハ出來得ル限りハ好意的ニ考慮ノ用意アルモ遠キ將來ニ亘ル趣旨ノ内容ヲ有スル諸問題ハ世界的平和到來迄考慮ノ餘地ナキ次第ナリ

545

昭和16年3月5日

芳沢日蘭會商代表より
松岡外務大臣宛(電報)

輸出許可制適用に対するわが方の是正要求と

蘭側回答振りについて

バタビア 3月5日後発

本省 3月5日後着

會商第一〇二號(至急)

往電第七三號ニ關シ

「其ノ後石澤ヨリ「ホ」ニ對シ總領事宛貴電第一〇七號ノ

趣旨ヲ體シ對日輸出ヲ阻害セサル旨ノ確約履行ヲ要求ス
ルト共ニ往電第七四號ノ一モ加ヘ錫以下五品目ノ増量方
交渉セル處前段ニ付テハ蘭側ハ客年六月六日附覺書ニ於
テ既ニ對獨再輸出ノ行ハレサルコトヲ條件トナシタルコ
ト竝ニ前記確約ハ當時日本側ヨリ申出ノ數量ニ對スルモ
ノナル處其ノ後三國同盟成立シ日本ヨリ對獨再輸出ノ證
據歴然タル今日到底無制限ノ輸出ヲ許容シ難キ旨ヲ述ヘ
後段ニ付テハ數箇月間調査ノ結果ナリトテ日本國內需要
見積リ對日輸出數字等ヲ提示シ一般ニ日本側説明ハ不充
分ニシテ蘭側ヲ納得セシムル能ハスト述ヘ

(イ) 錫ニ付テハ「ブリキ」板ノ輸入數字

(ロ) 「ヒマシ」ノ滿支ヨリノ輸入數字等ノ提示ヲ求メ

(ハ) 護謄ニ付テハ日本カ佛印ヨリ二萬五千噸ノ買付契約ヲ
ナセル情報アリ從テ蘭印ヨリノ供給ハ二萬噸以下ニ切
下クル外ナシト強調シ

(ニ) 「コプラ」及「パーム」油ニ付テハ大豆及鯨油ヲ國內
用ニ振向ケ可能ナル筈ニシテ又飼料トシテ「コプラケ
ーク」ノ需要アラハ別途「ケーク」ノミヲ供給シ得ヘ
シト論シ讓歩ノ色ヲ示ササリシ趣ナリ

ニ、當方ニ於テハ更ニ交渉ヲ繼續スヘク資料整理中ノ處前記
一、(イ)(ロ)ノ輸入數字提示方御承認相煩度尙(ハ)ノ佛印護謄買
付ニ關スル説明振り御回電請フ

~~~~~

546

昭和16年3月5日

芳沢日蘭會商代表より  
松岡外務大臣宛(電報)

### 細目協議における通商問題の討議内容報告

バタビア 3月5日後発

本 省 3月6日前着

會商第一〇三號(至急)

(1) 三日通商問題ニ關スル石澤「ホ」會談要旨左ノ通り

石澤ヨリ蘭印ノ通商政策ハ今次大戰迄ハ歐米諸國トノ間ニ  
締結セラレタル各協定ニ依リ種々ノ制限ヲ受ケ自然日本ト  
ノ間ニ約束シ得ヘキ範圍モ制肘セラレ居タルカ大戰ノ結果  
歐洲トノ通商關係窮屈トナリ剩ヘ歐米トノ關係モ船舶不足  
等ニ依リ往時ノ如クナラサルニ至レリ今次日本側提案ハ此  
ノ新情勢ニ應シ日本ト蘭印トノ通商關係調整セラルル要ア  
リト認メ之カ具體的方法トシテ(一)日本品ニ對スル割當増加  
(二)日本商ノ日本品取扱比率ノ増加(三)蘭印重要物資ノ對日輸

出量ノ増加及確保(四)關稅等ニ關スル友好的措置ノ四項目ヲ要求シタル次第ナルカ右ハ兩國通商關係ヲ圓滑均衡ナラシメ進テ兩國政治關係ヲモ改善セントスル合理的的要求ナルニ付蘭印政府ニ於テモ右日本側意嚮ヲ汲ミ誠意アル協力ヲ與ヘラレンコトヲ期待スル旨述ヘタル處「ホ」ハ御説明ニ依リ日本側要求ノ奈邊ニアルカハ理解セルモ從來ノ日本側遺口ニ付テハ蘭側ニ大ナル不滿アリ抑々<sup>(一九三七年)</sup>一九三四年石澤「ハルト」協定ニ依リ兩國ハ相互間貿易ヲ增長スル爲出來得ル限リ相手國ノ物資ヲ輸入スヘキコトヲ約束シ之ニ依リ蘭側ハ或商品ニ付テハ一九三六年ノ實績以上ニ日本品ノ輸入割當ヲ認メ又日本商社ニ對シテハ豫メ比率ヲ増加セルモノモアリタルノミナラス協定外ノ特別割當ヲ與フル等凡ユル好意ヲ示シ協定ヲ忠實ニ實行シ來リタリ而シテ日本ハ蘭印物資就中砂糖、珈琲、「コプラ」、「バーム」油、「ココア」、玉蜀黍、「カツサバルト」等買付量ヲ出來得ル限り増加スヘキ旨約スルト共ニ日本輸出組合問題ニ付テモ日本政府ハ合理的公平解決方必要ニ應シ努力スヘキ旨確約セラレタルニ拘ラス日支事變ニ藉口シ履行セズ蘭印ノ最モ重要視セル砂糖ノ如キハ一九三六年ニハ二十萬噸ノ對日輸出アリタ

ルニ三七年ノ終リニハ皆無トナリ珈琲、「カツサバルト」等又對日輸出激減スルノ結果トナレリ加之日本側組合ノ蘭商ニ對スル壓迫ハ最近事毎ニ募リ蘭商ヲシテ營業困難ニ陥ラシメ之カ救済方ニ付屢次申出テタルモ日本政府ハ一向ニ取上ケス蘭印トシテハ多大ノ失望ヲ禁シ得サル次第ナリ然ルニ今回日本カ新要求ヲ提出セルハ蘭側ノ甚タ意外トスル所ニテ蘭側トシテハ寧ロ今次會商ニ於テ日本カ砂糖、珈琲其ノ他ノ物產ヲ幾何位買付クル意嚮ナルカヲ先ツ示サルヘキ筋合ナリトテ頑強ニ反擊シ來レリ

依テ石澤ハ本件協定成立當時ハ日蘭兩國共日支事變ノ如キ前古未曾有ノ大事變ノ勃發ヲ夢想タモセサリシ所ナルカ日本ハ事變後ト雖蘭印物產買付ノ爲凡ユル努力ヲ爲シタリ又砂糖ノ買付ヲ約セルハ當時ハ内地ニ於テ精製北支ニ輸出シ外貨獲得ニ利シ得ル情勢ニアリシカ爲ナルカ其ノ後日支事變勃發トナリ北支ハ圓「ブロック」ニ入り從テ同方面ニ對スル輸出ハ何等外貨獲得ニ資セサルコトナリ遂ニ爪哇糖輸入力不可能トナリタル次第ナリト應酬セル處「ホ」ハ日本政府ノ努力ハ多トスルモ實際ノ結果ハ蘭印ニトリ満足ニアラストテ重テ砂糖、珈琲ノ買付及蘭商待遇振リノ改善方

ヲ要望セリ

次テ石澤ヨリ蘭印ト歐米諸國トノ通商關係ノ不圓滑ナル現狀ニ鑑ミ此ノ際日蘭兩國間ノ關係ヲ再檢討且調整シ將來永遠發展ノ礎石ヲ築クノ急務ナルヲ説キ右ニ對スル蘭側所見ヲ質シタル處「ホ」ハ御趣旨ハ同感ナルモ歐洲及極東ノ情勢變轉極マリナキ今日長期ニ亘ル協定ヲ締結スルモ實行出來ルヤ否ヤ甚タ疑問ニテ此ノ點日本側モ同様ナルヘク從テ數年ニ亘リ通商關係ヲ協定スルコトハ不贊成ナリ寧口情勢ニ應シ毎月適宜措置スル方最モ實際的ナルヘシト述ヘタリ右ニ對シ石澤ハ然ラハ蘭側ハ精々一、二ヶ月位ノ約束ヨリ成シ得ストノ意嚮ナリヤ斯ノ如クンハ何ヲ苦ンテ今次ノ如キ會商ヲ行フ要アリヤト難詰シタル處「ホ」ハ爾ク窮屈ニ考ヘ居ル譯ニアラス唯長期ニ亘ル固定的約束ハ實行不可能ニシテ不得策ナリトノ蘭側見解ヲ表明セル次第ナリ尙又對日輸出モ獨逸向ケ再輸出ヲ考慮スルトキハ迂闊ニ許可シ難キ事情ナリト辯解セリ

最後ニ石澤ヨリ日本側買付問題及組合問題ニ付テハ目下東京ニ請訓中ニテ近ク回訓アリ次第何分ノ回答ヲ致スヘキカ蘭側ニ於テモ夫迄ニ如何ナル程度迄日本側要求ヲ容認シ得

ヘキヤ回答ヲ準備置キアリタキ旨念ヲ押シ置キタル趣ナリ  
次回期日未定

就テハ先方ニ回答ノ都合モアリ往電第一八二號<sup>(二〇二カ)</sup>ノ件至急御回訓アリタシ尙本使ハ三好帶同「シヨクジヤ」王ノ招待ニ應シ六日當地發祭典ニ列席シ九日歸來ノ豫定ナリ

~~~~~

547 昭和16年3月14日 芳沢日蘭會商代表より
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

細目協議における日本品割当および在留邦商 取扱比率増加問題の討議内容報告

バタビア 3月14日後発
本省 3月14日夜着

會商第一二〇號

往電第一一七號ニ關シ

十三日會談ニ於テハ日本品割當及在留邦商取扱比率ノ増加問題ヲ議題トシ石澤ヨリ歐洲戰爭繼續中ハ勿論平和克復後ト雖生産機構ノ急速恢復困難ニ付蘭印トシテハ此ノ際日本品ノ割當ヲ増加シ得ヘク右ニ伴ヒ邦商取扱比率モ増大セシメ得ヘキ旨強調セル處「ホ」ハ歐洲諸國ニ對スル國別割當

4 芳沢特使の蘭印派遣と第一次提案をめぐる協議

ハ之等諸國トノ協定ニ依リ義務付ケラレ居ル處戰爭ノ爲大
部分自動的ニ振替ヘラレタリ然レトモ之ヲ正式ニ自由割當
(即チ對日割當)ヲナスコトハ歐洲戰爭モ本年中ニハ英ノ勝
利ヲ以テ終ルヘシト思量セラルル蘭側トシテハ戰後蘭本國、
英、佛、瑞西等ニ對スル協定ニ基ク義務不履行ノ結果ヲ齎
スニ付不可能ナルノミナラス最近蘭印物產資材ノ買付國ト
ナレル米國ノ good willヲ保持スル爲米國品ノ輸入ニ直接
間接ニ惡影響ヲ及ホスカ如キ新協定締結ヲ差控ヘサルヘカ
ラス尙蘭印ハ眞劍ニ工業化ニ努力中ナルカ織物始メ諸輕工
業ノ有望ナルコト實證セラレタルニ付將來蘭印ノ日本ニ求
ムル所ハ飛行機、船舶、機械等ノ重工業製品ニ移行シ行ク
コト確實ニシテ舊態依然タル織物雜貨一點張りノ長期協定
締結ハ此ノ點ヨリ言フモ困難ナリ更ニ日本側ハ輸出日本商
品ト仕向國內ニ於ケル日本商ノ問題ヲ不可分視シ居ル模様
ナルカ蘭側ハ之ヲ別個ニ考フルモノニシテ日蘭兩國商人ノ
地位ヲ公平ニ判斷スル爲在蘭印日本人輸出業者ト在日本蘭
人輸出業者並ニ在蘭印日本人輸入業者對在日本蘭印輸入業
者ノ關係ヲ比較スルニ

蘭商カ日本品對蘭印輸出ノ數割ヲ取扱フニ過キササルニ反シ

日本商ハ蘭印物產對日輸出ノ殆ト全部ヲ扱ヒ居レリ又蘭商
ノ日本ニ於ケル蘭印物產輸入取扱量殆ト皆無ナルニ反シ日
本商ハ蘭印ニ於テハ其ノ取扱商品ノ蘭印總輸入量ノ二割五
分内外ヲ輸入シ居ル次第ニシテ輸出輸入ヲ通シ日本側ニ頗
ル有利ナルノミナラス世界的ニ大觀スルモ在留外國商カ多
數ノ商品ニ付在留國總輸入量ノ二割五分ノ輸入權ヲ確保シ
居ルカ如キハ蘭印日本商以外ニ發見シ得サルヘク比率増加
ノ如キハ遺憾乍ラ考慮ノ餘地ナシト答ヘタリ依テ石澤ハ工
業化ハ相當長年月ヲ要スヘク歐品ヲ自動的ニ日本品ニ振替
ヘシメ居ル程ナラハ之ヲ短期間ノ協定ニ於テ確約スルモ差
支ナカルヘキ旨論駁セル處「ホ」ハ御趣旨ノ次第ハ石澤
「ハ」ノ協定ノ自由割當其ノ他ニ關スル條項ニ依リ充分
「カバ」セラレ居ルニ付今更新協定ヲ造ル必要モナカル
ヘシ尤モ右覺書ノ實行振ニ付御不滿アル次第ナラハ承ハリ
タシト反問セルニ付石澤ヨリ日本品割當及邦商取扱比率カ
一九三三年度實績以下ニ壓縮セラレタル儘ニ釘付ケセラレ
居ルコト自體ニ大不滿アル次第ナリト詳細説明セル處
「ホ」ハ右年度ハ圓爲替ノ下落セル結果日本品カ急激ニ蘭
印ニ進出セル不自然ナル年ナレハ之ヲ標準トシテ論セラル

ル日本側主張ハ承服シ難シ又

之ヲ實例ニ就テ見ルニ一九三三年前後ニハ日本商品ノ對蘭
印輸出ハ量ニ於テハ増加シ且日本輸出商ノ取扱ヒ比率ハ現
狀ヨリ大ナリシカ何レモ自由競争ノ結果値下リヲ見商人ノ
利益ハ現在ヨリモ遙カニ少ナリシニ現在ハ寧ろ各日本商ハ
ヨリ大ナル利益ヲ上ケ居レリト述ヘタリ次ニ石澤ハ日本ハ
昔ト異リ統制經濟實施ノ爲原料仕入レノ關係モアリ輸出量
豫定ノ要アリ蘭印トシテモ放任セハ必要日本品ヲ買付得サ
ル事態ヲ惹起スヘキニ付日本品割當ノ確約ハ兩國ノ利益ナ
リト說得セル處御尤モノ儀ナルカ蘭印トシテハ現下ノ國際
情勢ニ於テハ見透シ及豫定頗ル困難ニ付蘭印ノ需要見積リ
之ニ對スル日本ノ生産豫定等ハ經驗ニ富ム當業者ノ豫想ニ
委ネラレテハ如何ト答ヘタルニ付日本ハ蘭印物產買付ニ關
シ明確ナル數字ヲ提示セル次第ナレハ蘭側ニ於テモ日本品
買付増加及其ノ數量確約方考慮ヲ要望スト論セル處一應考
慮スヘシト約セル趣ナリ尙十四日ハ錫以下五品目ニ關シ討
議ノ豫定

548

昭和16年3月15日

芳沢日蘭会商代表より
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

錫・ゴムなど五品目の対日輸出問題に関する

蘭側主張への回答振り回示方請訓

バタビア 3月15日後発

本 省 3月16日前着

會商第一二二號(至急)

十四日會談要領

石澤ヨリ錫以下五品目ノ問題ハ蘭側ニ於テハ對獨再輸出ニ
疑惑ヲ抱キ居リ又日本國民間ニハ蘭印政府ハ英米ト提携シ
徐々ニ對日經濟封鎖ヲ行ハントスル方向ニ進ミツツアルニ
アラスヤトノ疑念起リツツアリ從テ蘭側カ一方の判斷ノミ
ニ依リ日本側要求量ニ大ナル削減ヲ加フルカ如キコトアラ
ハ愈々右疑念ヲ深メシメ遂ニハ不幸ナル摩擦ヲ生セシムル
コト必定ナリ蘭側代表ニ於テモ篤ト思フ致サレタシト述ヘ
タリ

「ホ」ハ蘭印カ英米ニ追從シ對日經濟封鎖ヲ企圖シ居ルカ
如ク考ヘラルルコトハ甚タ遺憾ナリ蘭印ハ飽迄自主的政策
ヲ執ルモノニシテ日本側疑惑ハ根據ナシト強ク否定セリ石

澤ハ右ヲ以テ蘭側ノ正式言明ト解シ差支ナキヤト念ヲ押シタル處「ホ」ハ差支ナシト答ヘ次テ左ノ要領ノ應酬ヲ重ねタル趣ナリ

一、錫⁽²⁾

石澤ヨリ往電第七四號及貴電ノ趣旨ヲ然ルヘク説明シタル處「ホ」ハ新嘉坡カ對日供給量ヲ年四、八〇〇噸ニ制限セルハ一時的措置ト聞及ヒ居レリ又日本ノ精鍊能力ハ年二、〇〇〇噸或ハ夫レ以下ト承知シ居リ日本側計數ハ多少訂正ヲ要スヘシ又日本ハ錫及罐詰類ヲ獨蘇ニ供給シ居ルヤ否ヤヲ承知シタシ若シ供給セラレ居ルトセハ其ノ數量ヲ日本側ヨリ正式ニ承ハリタシト要求セリ依テ石澤ハ斯ル事實アルヲ承知セサルモ爲念政府ニ照會スヘシト答ヘタリ

二、護謨

石澤ヨリ馬來ヨリノ輸入最近極メテ窮屈トナリ又佛印「タイ」ヨリノ供給モ現狀ニ於テハ期待出來サル事情(貴電第五三號末段ヲ説明ス)ナルヲ以テ蘭印護謨ノ輸入ヲ増加シタキ希望強キ次第ヲ強調セルカ「ホ」ハ蘭印側ノ入手セル確實ナル情報ニ依レハ日本カ佛印ヨリ大量ノ買

付ヲ行ヒ居リ又獨逸ハ日本ノ斡旋ノ下ニ佛印ヨリ直接西比利亞經由輸出シ居レリト述ヘ承服セス

三、「ヒマシ」

石澤ヨリ最大供給國タル滿洲國ノ生産減少セル結果蘭印ヨリノ輸入ヲ欲スル次第ヲ説明セルニ對シ「ホ」ハ二、三ノ質問ヲナシタルカ特ニ意見ヲ表示セス

四、就テハ右一、及三、ノ後段ニ對スル回答振至急御同電請フ

~~~~~

549

昭和16年3月16日

芳沢日蘭会商代表より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

石油問題に関する審議進捗や細目協議終了後  
の会商の進め方など蘭印経済長官と意見交換  
について

バタビア 3月16日後発

本省 3月17日前着

會商第一二四號(館長符號扱)

三月十五日日本使「モ」ヲ往訪シ(一)石油資源ノ問題ニ付テハ過日伊藤「モ」會見ノ際兩者ノ間ニ諒解ノ根本的相違アルコト明カトナリタル爲爾來此ノ問題ハ「デッドロック」ニ

陥リタル次第ナルカ我方トシテハ伊藤ノ述ヘタル通り我方ノ諒解ノ間違ナキコトヲ信シ從テ貴方ノ態度ニ對シ遺憾ノ念ヲ禁スル能ハサルモ貴我双方自說ヲ固持スルニ於テハ此ノ上審議ノ進行ヲ望ムコト能ハサルニ付今回我方トシテハ此ノ見地ヨリ貴方ノ諒解ニ同意スルコトニ決定セリ就テハ石油資源ノ問題ニ關シ從來通り伊藤ト會談繼續方希望ス(一)一般會商ノ基礎交渉ハ連日石澤「ホ」ノ會談ニ依リ非常ニ進捗シ最早一兩回ノ會見ニテ結了セントスルノ狀況ニテ本使トシテハ深ク石澤「ホ」ノ努力ヲ多トスル次第ナルカ偕テ此ノ基礎交渉ニ仕上ケヲ施スコトトシタク唯今立案中ニテ右ハ尙數日ヲ要スヘキモ今月末迄ニハ多分貴方ニ提出ノ運ヒトナルヘキニ付貴方ニ於テモ夫々御準備アリタシ(三)本使ハ三月二十一日出發飛行機ニテ「スマトラ」ニ赴キ約一週間ニテ歸來スヘシト述ヘタル處「モ」ハ(一)ニ對シ昨年以來ノ歴史ヲ説明シ自分ノ解釋ノ誤ラサルコトヲ述ヘタル後日本側ニ於テ自分ノ諒解ニ同意セラレタルコトハ眞ニ結構ニテ自分トシテハ伊藤トノ交渉繼續ヲ快諾スヘシ尙細項ニ付テハ本國植民大臣四月一日當地ニ來着スヘキニ付本國政府ノ承認ヲ得ル爲ニ好都合ナリト述ヘタルニ付植民大臣ハ

右ノ如キ權能ヲ有スルヤト尋ネタル處最高責任者ニテ本國政府トノ電報往復ノ煩ヲ避クルヲ得ヘシ(二)御話ノ次第ハ愉快ニ承リタリ來月上旬ハ關係大臣二人共當地滞在ノ筈ニテ諸事好都合ナリ多分日本側ノ提案ニ對シ數日ノ内ニモ蘭側ノ案ヲ決定シ得ヘキカト思ハルト答ヘタリ右要領ノミ不取敢



550

昭和十六年三月十七日

芳沢日蘭會商代表より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

日蘭會商わが方提案への蘭側全面承認は実現  
の見込みがなく入国・企業問題等に関する修  
正案の対蘭提議方請訓

別電

昭和十六年三月十七日發芳沢日蘭會商代表より

近衛臨時外務大臣事務管理宛會商第一二五  
号

右修正案

付記

昭和十六年三月十九日發芳沢日蘭會商代表より

近衛臨時外務大臣事務管理宛電報會商第一  
二八号

通商問題に関する修正案

バタビア 3月17日後発

本省 3月18日前着

會商第一二三號(至急、館長符號扱)

一、石澤ト「ホ」トノ間ニ過去數週間ニ亘リ交渉ノ基礎工作ヲ爲セルカ其ノ内容ハ大體累次往電ノ通ナル處右交渉ニ依リ推知スルニ蘭側ニ於テ一月十六日提出ノ我方要求覺書ヲ其ノ儘承認スルコトハ絶對不可能ト認メラルルノミナラス其ノ言分ニハ無理カラヌ點モアリト存セラルル處今次交渉ヲ不成立ニ終ラシムルヨリハ假令暫定協定ノ形トシテモ或程度ノ歩寄リヲ爲シ何等カノ妥結ヲナスコト此ノ際得策ト思考セラルルニ付テハ我方覺書前文ノ主張ハ我方之ヲ保持スルモノナルコトヲ明確ナラシムルト共ニ入國企業等ニ付テハ別電ノ如キ内容ヲ蘭側ヲシテ容認セシムルコトニ依リ妥結ヲ計ルコト致度ク最モ右妥協案ニ對シテモ蘭側力全部之ヲ容認スルヤ否ヤハ不明ナルカ我方トシテハ此ノ線ニ沿ヒテ最善ノ努力ヲ爲シタキ所存ナリ最モ右妥協案ノ程度以上ノモノハ蘭側ヲ承服セシムルコト殆ト不可能ト存セラルルニ付右豫メ御含ミ置キ

相成度シ尙四月一日頃來着ノ和蘭本國外務及植民大臣ノ當地滞在ハ精々一、二週間位ノ豫定ノ趣ナルカ右滞在ノ機會ヲ利用スル爲本月末迄ニハ蘭側ニ本案ヲ提出シタキ所存ナルニ付テハ通商問題ニ關スル妥協案ト一括御研究ノ上何分ノ儀大至急御回訓請フ

二、通商問題ニ付テハ石澤「ホ」間ニ基礎工作中ナルカ遠カラス一應ノ見通シ着クヘキニ付追テ妥協案具申スヘシ

(別電)

バタビア 3月17日後発

本省 3月17日夜着

會商第一二五號(至急、館長符號扱)

往電<sup>(1)</sup>第一二三號別電

一、入國關係

(イ)蘭印政府ハ日本人從業員ノ入國ニ付テハ關係者ヨリ許可ノ申請アル場合ハ事情ノ許ス限り多數且迅速ニ許可方好意の考慮ヲ加フル用意アリ尙右許可ハ理論的ニハ入國令ニ定メラレタル各國人入國制當(一箇年八百名)竝ニ超過割當ノ範圍迄ハ下附セラレ得ヘキコトヲ言明

ス

追テ一九三七年乃至一九四〇年ノ日本人従業員申請數ハ一箇年當リ最高二百六十五名ニシテ右ニ對スル許可數ハ最高二百五十名ナル處蘭印政府ハ許可數ヲ右程度ニ限定セントスルモノニアラス

(ロ)従業員交替許可及許可延長申請者竝ニ入國ノ目的カ一時のナルモノハ(イ)項ノ數ニ包含セラレス

(ハ)日本人ノミノ治療ニ從事スル目的ヲ以テ渡來スル日本人醫師(齒科醫ヲ含ム)ノ入國及營業ハ地方別ニ一定數ヲ限り許可ノ用意アリ尤モ遠隔ノ地ニ於ケル日本人企業ニ關係スル日本人従業員ノ治療ニ從事スルコトヲ許可セラレタル日本人醫師(齒科醫ヲ含ム)ハ要スレハ同企業ニ從事スル日本人以外ノ従業員又ハ使用人ヲ治療スルコトヲ得

## 二、企業關係

(イ)蘭印政府ハ企業ニ關シ日本人關係者ヨリ具體の申請アル場合ハ其ノ都度之ヲ好意的ニ審議シ計畫遂行上必要ト認メラルル時ハ事前調査ヲ許容シ事業着手承認又ハ許可ノ上ハ従業員ノ雇傭、運搬施設其ノ他必要ナル設

備ヲ施スコトニ付出來得ル限り好意的ニ取計フ用意アリ

(ロ)鑛業ニ關シテハ蘭印政府ハ日本人企業家ノ探鑛及探鑛申請ヲ好意的ニ審議スル用意アリ尙政府保留地域内ニ於ケル鑛業ニ付テモ日本人企業家ハ鑛業法第五條Aニ基キ探鑛及探鑛ノ許可申請ヲ爲シ得ヘク右申請ニ對シテハ蘭印政府ハ好意的の考慮ヲ與フルノ用意アリ

(ハ)水産業ニ關シテハ蘭印政府ハ日本人關係者ヨリ具體の申請アル場合ハ土人漁業保護及國防上ノ理由ニ依リ差支アル場合ヲ除キ之カ許可方ヲ好意的ニ考慮スル用意アリ

## 三、交通、通信關係<sup>(2)</sup>

(イ)蘭印政府ハ日蘭印間航空發達ハ兩國經濟關係緊密化ニ貢獻スルカ故ニ之カ實現ヲ望マシトスル日本側見解ニ對シ主義上贊意ヲ表スルモ現在ノ情勢ニ於テハ實現ヲ困難トスル事情アルニ付差當リ盤谷及西貢其ノ他ニ於ケル日蘭機聯絡ノ改善ヲ計ルコト然ルヘク右改善ニ付テハ協力ノ用意アリ

(ロ)日蘭印間電信聯絡ニ付テハ蘭印政府ハ「マラバル」無

電對日聯絡改善方竝ニ「ヤップ」「メナド」間海底電線利用方ニ付日本政府ト協力ノ用意アリ

(ハ)沿岸航海ニ關シテハ既存日本人企業ニシテ事業ノ進行ニ伴ヒ沿岸航海自營ノ必要ヲ痛感スルモノニ付テハ前廣ニ申請アル場合竝ニ新規日本人企業ニシテ事業ノ進行ニ伴ヒ沿岸航海自營ノ必要豫想セラルルモノニ付テハ最初ヨリ企業計畫ノ一部トシテ申請アル場合ハ蘭印政府ハ國防上ノ理由ニ依リ差支アル場合ヲ除キ之ヲ好意的ニ考慮スルノ用意アリ尙蘭印政府ハ沿岸航海ニ從事シ居ル既存日本船舶ノ運行經營繼續ヲ困難ナラシムル意圖ナキコトヲ闡明ス

(ニ)日本人企業ノ經營其ノ生産増大又ハ日蘭印間貿易ノ増進ニ伴ヒ不開港場ヲ特定產物ノ爲ノ不開港場若クハ一般の開港場トナスノ必要ヲ生スルニ至リ關係者ヨリ要請アル場合ハ蘭印政府ハ其ノ實現方ニ付好意的ニ考慮ノ用意アリ

(ホ)日本向物資積出ノ爲日本船ノ不開港場寄航ヲ必要トスル場合關係者ヨリ申請アラハ蘭印政府ハ出來得ル限り便宜ヲ計リ其ノ手續ヲ迅速且容易ナラシムル様好意的

ニ考慮ノ用意アリ

#### 四、營業制限

蘭印政府ハ日本人小商人及企業者ニ付テハ石澤「ハルト」覺書第二節第六項ノ精神ヲ尊重スルモノナルカ倉庫業其ノ他既ニ營業制限令ノ適用ヲ受ケ居ルモノハ一般ニ競爭激甚ニシテ大規模進出ノ餘地ナキモ具體的申請アラハ個々ノ場合ニ付好意的ニ考慮スルノ用意アリ

#### (付記)

バタビア 3月19日後発  
本 省 3月20日前着

會商第一二八號(館長符號拔、至急)

往電第一二五號ニ關シ

五、通商貿易關係

蘭印政府ハ蘭印物資ニ對スル日本國內需要ノ激増ニ鑑ミ且日本品ノ蘭印ヘノ輸入増加ハ蘭印住民ノ福祉増進ニ貢獻スヘキコトニ鑑ミ現在日本カ蘭印ノ對外貿易増進及將來占ムヘキ地位ノ重要ナルヲ認メ一九四一年四月一日ヨリ向フ一ケ年間左ノ通り措置スル用意アル旨言明ス

(一) (イ) 日本品ノ輸入ニ對シ割當比率其ノ他一切ノ措置ニ付現在以上ノ制限ヲ加ヘサルノミナラス歐洲ヨリノ輸入困難トナリタルモノニ對シテハ日本品ノ輸入ニ付優先的ニ考慮スルコト

(ロ) 在蘭印日本商ニ對シ第三國品ノ輸入義務ヲ課セサルコト

(ハ) 在蘭印日本商ノ輸入取扱比率ノ増加方ニ付考慮スルコト

(二) 別表掲記ノ蘭印物資ノ對日輸出ヲ必ス且速ニ許可スルコト

(三) 輸入税、輸出税、附加税及公定價格(「プライスリスト」ニ規定スル價格ヲ含ム)等ニ關シテハ對日本關係商品ニ付不利益ナル差別待遇ヲナサルハ勿論好意的措置ヲ執ルコト

(四) 日蘭兩國政府ノ一方カ期間終了ニ至ル三箇月前ニ廢棄ノ豫告ヲ發セサルニ於テハ右措置ハ期限後更ニ向フ一箇年間延長スルコト



551

昭和16年3月18日

近衛臨時外務大臣事務管理より  
芳沢日蘭会商代表宛(電報)

錫・ゴムなど五品目の對日輸出問題に関する

蘭側主張への回答振り回訓

本省 3月18日後10時発

會商第五九號(極秘、至急)

貴電第一二二號ニ關シ

蘭印政府ハ英、米ト提携シテ對日經濟壓迫ヲ企圖セス飽迄自主的政策ヲ執リ居ル旨屢々繰返シ居ルモ事實ハ之ニ反スト認メサルヲ得ス即チ

(一) 總領事發第一二三號及第一二六號電報ニ於ケル輸出許可制及對日輸出數量ノ限定(交渉餘地殘セルモ)ノ如キハ米國ノ輸出許可制度ニ倣ヘルモノト稱スヘク

(二) 英領馬來ト蘭印カ對日輸出ニ當リ我國内需要ノ現實ヲ無視シテ單ニ過去ノ我輸入実績ノミニ依リテ勝手ニ我需要量ヲ斷定シ兩地域ヨリノ對日各輸出量ヲ右ノ獨斷的需要量ニ對シ按分的ニ規定セントシ既ニ錫及護謨ニ付テハ馬來當局ハ蘭印ノ對日輸出量ヲ睨ミ合ハスト稱シ蘭印當局ハ馬來ノ對日輸出量ヲ云々シテ其輸出許可量ヲ定メント

シ現ニ冒頭貴電中錫ニ關シ「ホ」カ新嘉坡ノ對日輸出量  
年四千八百噸ヲ引合ニ出セルカ如キコトモ兩地域間連絡  
緊密ナルコトノ證左ナリト稱セサルヲ得ス

(三)然モ最モ不都合ナルコトハ佛印トモ經濟部員「マルタ  
ン」(最近東京會談ノ中途ヨリ歸國シ馬來、蘭印ヲ歴訪  
セリ)ヲ通シテ聯絡ヲ取り居ル事實アリ

「ホ」カ日本ハ佛印ヨリ二萬五千噸ノ護謨買付ヲ爲セリ  
(貴電第一〇二號ノ一ハ参照)ト突込ミタルコトモ實ハ最  
近入手シタル最モ確實ナル情報ニ依レハ「馬來、蘭印、  
佛印間ニ護謨ニ付テ日本ノ國內需要量ヲ決定シ之ヲ基準  
トシテ此等三地域ヨリノ供給量ヲ夫々決定スヘク佛印ハ  
差當リ護謨二萬五千噸(實ハ獨逸ノ買付ニ係ルモノナリ)  
ヲ日本ヘ輸出スルコトトシ他ノ二國ハ之ニ基キ對日輸出  
ヲ制限スル旨ノ協定成立シタル趣ニテ之ニ依リ「ホ」カ  
前記ノ如キ言ヲ爲シタルモノト想像セラル(然シ事實上  
佛印護謨ノ買付未タ何等纏マラサルコトハ往電第五三號  
二ノ通)

(四)又蘭印政府ハ客年九月十二日ヨリ十一月十五日迄ノ日蘭  
交渉經過ヲ「タイ」國政府ニ通牒セル事實(經過報告書

ハ「タイ」國政府ヨリ入手セルカ其内容中事實ハ大體正  
確ナルモ我代表部ニ對スル勝手ナル批判アリ全文後送  
ス)ヨリ見レハ「タイ」國ニ對シテモ手ヲ伸サントセル  
ニ非ラスヤトスラ思考セラル

就テハ右事情御含ミノ上本件ニ付應酬セラルルト共ニ錫及  
護謨ニ關シテハ左ノ通御回答相成度

(イ)客年七月申育ニ於ケル三菱支店長及「ビリトン」會社  
ノ「ブロック」間錫鑛石交渉當時「ブ」カ毎月五百噸位  
ナラハ對日供給スヘシト言ヘタル經緯ニ鑑ミ我方ニ於テ  
精練所ノ擴張ヲ爲シ現在年五千噸マテノ能力ヲ有スルニ  
至レリ然ルニ蘭印側ハ對米供給ニ吸々タル狀態ニシテ我  
要求ニ應セサルコトハ洵ニ遺憾ニシテ然モ最近馬來ヨリ  
ノ輸入極減セル實情ナルニ付是非蘭印ヨリ輸入スル外ナ  
キナリ

尙錫ハ全ク對獨輸出セス若干罐詰類ノ輸出アルモ平時ト  
異ナラス寧口罐詰類ハ圓「ブロック」向輸出激增シ居ル  
爲錫ノ大量不足ヲ來シ居レリ

(ロ)獨逸ノ佛印產護謨買付ニ付テハ獨、佛間ニ決定セラレタ  
ルモノニシテ全然我方ノ斡旋ニ依ルモノニ非ス

552

昭和16年3月28日

近衛臨時外務大臣事務管理より  
芳沢日蘭会商代表宛(電報)

日蘭会商わが方提案に関し修正案は提示せず

原案で交渉方訓令

本省 3月28日後7時発

會商第六八號(館長符號扱)

貴電會商第一二三號ニ關シ

入國企業等ノ問題ニ付今何等カノ妥結ヲ圖ルトセハ貴電第一二五號ノ如キモノヨリ外無カルヘシトノ貴見ハ尤モナルモ御承知ノ通り本件交渉ハ我朝野ノ重大關心事ニシテ此ノ際交渉ヲ有耶無耶ニ終ラシメンカ内國民ノ我外交ニ對スル信賴ヲ喪ハシメ外敵性國家ニ對シ日本與シ易シトノ印象ヲ與ヘ其ノ侮蔑壓迫ヲ助長シ内外ニ與フル政治的影響重大ナリ

確實ナル情報ニ依レハ蘭側ハ貴代表ノ滞在ヲ煙タカリ日本カ情勢轉換ヲ俟テ強硬態度ニ轉セン爲ノ伏線ノ存在ト看做ス一方交渉ハ双方ニトリ單ニ時間ノ空費ニ過キストノ極メテ冷淡ナル態度ニ出テ特ニ代表部ノ協調的態度ニ表面満足ヲ裝ヒ乍ラ之ヲ以テ日本ノ軟化ト解シ氣ヲ良クシ居ル形跡

アリ

然レトモ松岡外相渡歐後ノ形勢ノ變化及米國側ノ氣ヲ引キタル後近ク貴地ニ渡ルヘキ外相及植民相(親日的人物)ノ意嚮モアリ甚タ御苦勞ナカラ暫ク我要求原案ヲ執拗ニ「プツシユ」スルト共ニ重點ヲ物資獲得ニ移行シ情勢ノ推移ヲ待ツコトト致度シ(軍側トモ協議済)

追テ當分代表部ヲ存續スルコト絕對ニ必要ナル事情アルニツキ交渉ノ運行ニ當リ代表部迫出シノ蘭側策謀ニ乗セラレサル様御配慮アリタシ

553

昭和16年3月28日

在バタビア石沢総領事より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

対日石油政策に関する蘭印紙論說報告

バタビア 3月28日後発

本省 3月28日夜着

第二三九號

二十七日「ジャバ、ボーデ」論說(対日石油政策)要領左ノ通り

今次戦争勃發以來蘭印政府ノ取りタル措置ノ内最モ非難セ

ラレタルハ日本トノ石油協定ニシテ賣油契約量豫期以上ニ達シタリトノ松岡外相聲明ハ更ニ右非難ニ拍車ヲ掛ケ蘭印ハ英米トノ共同戦線ヨリ脱落セリトサヘ想像セラレタリ然ルニ航空機用「ベンジン」ヲ除キ米國ノ對日石油輸出ハ依然繼續セラレ寧口増加ノ傾向ニアル事實ハ蘭印大衆ニ知ラレ居ラススル米國ノ石油政策ハ英米兩國政府カ日本トノ正面衝突ヲ希望セサリシコトニ原因スル由ナルカ蘭印政府ノ右兩國政府ノ完全ナル了解ノ下ニ之ト同一歩調ヲ取リタルモノナルハ疑ナカルヘシ從テ米國ノ對日石油「エンバーゴ」カ蘭印ト日本トノ石油協定ニ依リ實效ヲ失ヒタリトナスハ當ラス一方最近ノ紐育發「アナタ」電ハ米國ハ從來ノ對日石油政策ヲ再檢討シ近ク徹底的輸出制限ヲ採用スヘシト報道シ居ル處過去六ヶ月間ニ於テ米國ノ實力輿論自身増大セテ結果今ヤ同國ノ石油政策ハ昨年九月ニ比シ一層確固不動ノモノトナルヘタ右ハ單ニ米國ニノミ限ラレタルコトニアラス蘭印ニ付テモ同様ナリト云ヒ得ヘシ

554

昭和16年3月29日

芳沢日蘭會商代表より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

錫・ゴムなど五品目の対日輸出問題でわが方の要求貫徹は不可能につき対処振り請訓

バタビア 3月29日後発  
本省 3月30日前着

會商第一四一號(至急)

貴電第五九號ニ關シ(蘭印產物資ノ買付方ニ關スル件)

「其ノ後「コプラ」及「パーム」油ニ付數回會談セルカ蘭側ハ我方ノ懇切ナル説明ト提供資料ヲ信スル氣配ナク特ニ油脂ハ大体不可能ナル點竝ニ滿洲國政府發表數字ヲ基礎トシテ日本ハ外貨ヲ以テ「コプラ」等ヲ買ハストモ圓貨ニテ必要量ノ大豆ヲ買ヘヌ譯ナシトノ點ヲ強調シ全然讓歩ノ色ヲ示サス依テ我方トシテハ錫以下五品目全部ニ關スル事務的討議ヲ中止シ政治的折衝ニ依リ目的貫徹ヲ圖ル外ナシト思考シ居タル矢先冒頭貴電接到セルニ付二十五日石澤ヲシテ「ホ」ト會談セシメタルカ其ノ要領左記ニノ通りナリ

一、石澤ヨリ我方ハ五品目ニ對シ出來得ル限り數字ヲ提供シ眞劍ニ説明ニ努メ來リシニ蘭側カ對獨再輸出問題ニ拘泥シ納得ノ色ナキハ頗ル遺憾ナリ然ルニ確實ナル情報ニ依

レハ蘭側ハ會商内容ヲ第三國ニ通報セル事實アリ輸出許可制ハ米ニ倣ヘル嫌アリ又護謨ニ關シ佛印ト内通セリトノ情報アリ其ノ他蘭印カ過去ノ輸入實績ノミ楯ニ取り且常ニ英領馬來トノ關聯性ヲ強調スル點等總ユル角度ヨリ考ヘ蘭印ノ獨立自主性ニ關スル貴官屢次ノ言明モ當ニナラスト言フ外ナシ帝國政府ニ於テモ又代表部ニ於テモ蘭印ハ英米ニ追隨シ對日經濟壓迫政策ヲ執リ居ルモノトノ印象強シ斯ノ如クンハ此ノ上數字ヲ提出シ討議ヲ續クルモ無意味ナリト述ヘタル處「ホ」ハ第三國ニ對スル會商内容通報ノ事實ナキ處確證アラハ提示アリ度シト答ヘタルニ付確證提示ハ我方ノ必要ト認ムル時期ニ之ヲ行フコトアルヘキモ目下其ノ必要ヲ認メスト突撥ネタル處「ホ」ハ「マルタン」ノ蘭印訪問ハ佛印產鹽魚ノ輸入ニ關聯スルモノニシテ對日關係ノ爲ニアラス英米ト蘭印カ經濟的ニ對日共同戰線ヲ張ルカ如キコトナキハ更ニ茲ニ言明シテ可ナリ今次措置カ米ノ輸出許可制度ニ類似ストセハ其レハ偶然ノ一致ニシテ對獨再輸出防止ノ爲ニハ當然ノ措置ナリ英領馬來ト蘭印ハ錫、護謨ノ對日最大供給國タルノミナラス對獨物資遮斷ニ付テハ同盟國トシテ共

同目的ヲ有スルニ付相互ニ數字の吻合セヲ行フハ自然ノ理ナリ要スルニ蘭印對諸外國ノ關係ヲ率直ニ申セハ蘭印ハ英ト共ニ全力ヲ舉ケテ獨ヲ倒ササルヘカラス其ノ方法ノ一ハ歐洲ニ於テ戰爭其ノモノニ勝ツコトニハ物資供給遮斷ニ依ル獨逸戰鬪力ノ減殺ナルカ右目的ノ爲ニハ如何ナル犠牲ヲ拂フトモ邁進スル覺悟ナリ從テ五品目ニ關スル日本側要求量ヲ其ノ儘受諾スルコトハ絕對不可能ナリ<sup>(2)</sup>一方日英及日米關係ノ惡キコトハ承知シ居ル處右ハ蘭印ノ關與スルヲ欲セサル問題ナリ一體日本政府ニ於テハ五品目ニ關シ日本ヨリ直接ハ勿論滿支ヨリモ蘭印產タルト否トヲ問ハス「シベリヤ」經由對獨輸送ヲ絕對ニ行ハサル旨明確ニ約セラレ蘭側ノ納得シ得ル方法ニ於テ其ノ實證ヲ示サルコト可能ナリヤト反問セルニ付石澤ハ日本側要求物資ハ獨向ニアラスシテ日本自身ノ需要ノ爲ナルニ付斯ル言明ノ必要ヲ認メス若シ貴見ノ次第カ蘭印政府ノ確固タル方針ナラハ此ノ上説明ヲ繰返スモ無駄ナリ唯改メテ強調シ置キタキハ今次蘭側決定數字カ過去ノ統計ニ基キ獨斷のニ定メラレタルモノニシテ日本ノ支那事變生産擴充等ニ關聯シ滿支用ノ爲ニモ年々激増シ居ルハ豫

算ノ膨脹ノミヲ見ルモ明瞭ナルニ蘭側力之ヲ認識セント  
ノ努力ヲ爲ササル點ニシテ右ハ明カニ非友誼的態度ト認  
メサルヲ得スト突込ミタル處「ホ」ハ一應考フヘキモ日  
本側ノ満足セラルル解決ハ困難ト思考スルモ早ヤ貴官ト  
ノ話合モ他ノ諸問題ニ付テハ一切リ終了セル譯ナレハ本  
件ハ一應他ト切離シ後日討議ノコトトシテハ如何ト述ヘ  
タルニ付石澤ハ物資ノ買付確保ハ我方ノ重視スル所ニ付  
後廻ハ不可能ナリト應酬シ置キタル趣ナリ

三、事情右ノ通りナルニ付我方要求ノ貫徹ハ單ニ議論ヲ重ヌ  
ルノミニテハ最早不可能ト認メラル殘ル所ハ蘭側希望ノ  
保障ヲ與ヘテ解決ヲ計ルカ之ヲ與ヘスシテ若干ノ増量ヲ  
承諾セシムヘク努ムルカニアル處前者ハ假令保障ヲ與ヘ  
タリトテ現在狀態ニテハ我方要求ノ全量ヲ認ムルヤ否ヤ  
疑問アルノミナラス政府ニ於テモ保障的言明ニハ御異議  
アルヘシト豫想セラルルニ付結局後者ノ「ライン」ニテ  
進ム外ナカルヘシト思考スル處政府ニ於テハ最小限如何  
ナル數量迄確保セハ御辛棒願フルヤ關係省トモ御協議ノ  
上至急御回電相煩度シ

555

昭和16年3月29日

在バタビア石沢総領事より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

対日石油政策に関する論説につき蘭印政府へ

注意喚起について

バタビア 3月29日後発

本省 3月30日後着

第二四四號

往電第二四三號ニ關シ

二十八日「ホ」ヲ往訪「ジャバボーデ」論説ハ如何ニモ蘭  
印カ米ノ對日石油輸出禁止ヲ喜ヒ且蘭印トシテモ同様政策  
ニ出ツルコトヲ慫慂シ居ルモノニシテ總督始メ貴官力屢々  
本官ニ言明セラレタル蘭印ノ獨立自主的政策ト背馳スルモ  
ノト言ハサルヘカラス若シ蘭印カスル傾向ニ進ミ英亦之ニ  
步調ヲ合ストセハ其ノ時コソ日本ノ上下ハ一大決心ヲ以テ  
一戰ヲ賭シテモ英米蘭ノ共同「フロント」ヲ突破セサルヲ  
得サルノ止ムナキニ至ルコト必定ナリト思考ス就テハ本官  
トシテハ政府ニ報告ノ義務アル處其ノ前左ノ點ニ付蘭側ノ  
態度ヲ明確ニ承知シ置キタシ即チ前記論説ハ(一)蘭印ノ輿論  
ヲ反映スト解シ差支ナキヤ(二)蘭印政府又ハ政府内一部ノ意

嚮ヲ反映スト解シ差支ナキヤ(三)嚴重ナル言論統制ヲ爲シ居ル當領ニ於テ斯ル論說ノ現ハルルヲ何故ニ默認セルヤ(四)本論說ノ趣旨ヲ否認スル様適當ノ措置ヲ講スル用意アリヤト質シタルニ對シ「ホ」ハ稍當惑ノ體ニテ眞劍ナル口調ヲ以テ左ノ通り答ヘタリ即チ(一)及(二)ヲ否定シ「ジャバボーデ」主筆ハ極端ナル議論ヲ爲ス傾向強ク決シテ輿論ヲ代表スルモノニアラス又政府部内ノ意嚮ヲ反映スルモノニモアラサルハ確言シ得ル所ナリ口ニ對日「エンバーゴ」ヲ唱ヘツツ依然トシテ盛ニ輸出ヲ續ケ居ル米國ノ尻馬ニ蘭印カ乗ル道理ナシ尤モ當領ニ於ケル極端分子ノ中ニハ斯ル議論ヲ唱フル者アルハ否定セス(三)ニ付テハ新聞統制行ハレ居ルモ印刷前二一々檢閲シ居ル次第ニアラス(四)ニ付テハ自分一存ニテハ即答不可能ナレハ追テ協議ノ上回答セシ  
要領「スラバヤ」「メダン」「メナド」ニ轉電セリ

編 注 「二三九？」との書き込みあり。

556

昭和16年3月31日

芳沢日蘭会商代表より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

蘭印の対日態度にも鑑み日本よりの重要商品の対蘭印輸出に許可制ないしは割当制の実施を検討方意見具申

バタビア 3月31日後発  
本省 3月31日夜着

會商第一四三號

往來會商第一三九號ニ關シ

一、蘭側カ年初以來錫、護謨等重要物資ノ對日供給ヲ制限セルノミナラス其ノ後我方屢次ノ申入ニ拘ラス數量増加ヲ承諾セサル態度ハ冒頭往電ノ通りナル處他方我國ヨリノ對蘭印輸出ハ順調ニ行ハレ居ル結果蘭印ニ於ケル我國ノ遊資ハ相當多額ニ上リ今後相當ニ増大スル見込ナルカ多額ノ遊資保有ハ我方ニ何等ノ利益無キノミナラス今後國際情勢急變ノ場合ハ之等資金ノ凍結ヲ來ス惧モアリ資金凍結防止ノ爲ニモ亦蘭側態度ニ對スル對抗措置トシテモ賣リ止メ等ハ避クヘキモ日本ヨリノ對蘭印輸出ヲ調整スル建前ヲ以テ綿絲布等重要商品ノ對蘭印輸出ニ對シ至急許可制又ハ割當制ヲ實施スルコト必要ナリト思考ス  
二、尙綿絲布等ノ對蘭印供給制限ヲ行フモ蘭側現下ノ一般情

勢殊ニ船舶狀況ヨリ推シテ供給先ヲ全部米國其ノ他ノ第三國ニ轉換スル等ノ事ハ容易ナラサルヘシト認メラル以上本省ニ於テモ既ニ御考慮中ト拜察スルモ爲念申進ス

~~~~~

557
昭和16年4月1日 芳沢日蘭会商代表より
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

第二次提案の提出方および交渉方針協議のた

め芳沢代表一時帰朝方につき請訓

付記 昭和十六年三月三十一日発芳沢日蘭会商代表

より近衛臨時外務大臣事務管理宛電報(会商第

一四五号

修正案による妥結を図るべき旨の石沢総領事

意見具申

バタビア 4月1日前発

本省 4月1日前着

會商第一四四號(大至急、館長符號扱)

貴電⁽¹⁾第六八號館長符號扱ノ御趣旨ハ入國企業等ノ問題ノ關スル限りニ於テハ往電ノ「ライン」ニテ交渉ヲ進ムルコトニ御異存無キヤニ認メラルルニ拘ラス兎角我方提案ノ原案

ヲ固執シテ通商問題ノ交渉即チ物資獲得ノ増大ヲ計リタシトノ御希望ナルヤニ察セラル處通商交渉ハ其ノ性質ニ於テ入國企業等ノ問題トハ全然別種ノモノニ屬シ入國企業ニ關スル我方原案ヲ固執シテ通商交渉ニ移行スルコトハ不可能ト存ス本來我方原案ハ昨年八月二十七日ノ會議ニ於テ決定セラレタル政府案ト大同小異ノモノニテ其ノ儘蘭印政府ヲシテ受諾セシムルコトノ不可能ナルハ申迄モ無ク松岡大臣ハ本使ニ對シ其ノ半分ニテモ纏メ呉レハ結構ナリト申サレタル程ニテ我方原案ノ如キハ最初ヨリ全部蘭側ヲシテ受諾セシムルコトヲ期待シタルモノニ非スシテ唯之ヲ囑トシテ蘭側ト如何ナル程度ニ於テ話ヲ纏メ得ヘキヤノ心組ヲ作ル爲ニ提出シタルニ過キス從テ石澤「ホ」十數回ノ談判ニ於テ大體ノ見當付キタル爲往電我方第二回ノ提案ヲ作成シタル次第ニテ幸ヒニ若シ政府ニ於テ之ヲ承認セラルル場合ニハ本使ヨリ之ヲ「モ」ニ提示シテ最善ノ努力ヲ試ミタキ底意ナリシ處

政府⁽²⁾ニ於テハ右妥協案其ノモノニ對シテハ御異議ナキモノノ如キモ物資獲得ニ重點ヲ置カレ妥協案ヲ暫ク左置シテ當分原案ヲ固執シテ物資獲得ヲ有利ニ解決セント欲セラルル

モノノ如シ然ル處前記ノ通り物資獲得ハ全然種類ヲ異ニスル問題ナルヲ以テ錫ヤ護謄ノ數量ヲ増加センカ爲入國者ノ數乃至漁業權等ヲ固執スルニセヨ見當違ヒノ問題ニテ談判ノ體ヲナサス尙又貴電ノ中ニハ御來示ノ如キ方針ヲ執ラルルニハ何等カ重要ナル事情アルモノノ如キモ右事情トハ如何ナルモノナリヤ敢テ本使ニ祕セラルル必要ナシト思ハルニ付御來示ヲ仰キタシ要スルニ政府ニ於テハ今回ノ交渉不調ノ場合ニハ頗ル重大ナル結果ヲ生スヘシトシテ危惧ノ念ヲ抱カルルカ如キモ果シテ之ヲ纏メラルル御心底ナリヤ將又唯無意味ニ之ヲ引キ延ハシ置ク必要アル次第ナリヤ今回ノ御訓令ハ松岡大臣ト本使トノ話合ヒニ顧ミレハ充分了解シ難キ節アリト思考スルニ付本使ハ親シク政府ノ御心底ヲ拜承スル爲盤谷臺灣經由飛行機ニテ滯京約一週間ノ豫定ニテ一時歸朝致度キニ付右諒承ヲ請フ

(付記)

バタビア 3月31日後発

本省 4月1日前着

會商第一四五號(大至急、館長符號扱)

往電會商第一四四號ニ關シ

齋藤局長ハ石澤ヨリ

「蘭側ハ我代表部ノ長期滞在ヲ好マス會商打切ノ機會ヲ狙ヒ居レルコトハ事實ナルカ今日尙其ノ舉ニ出テサルハ芳澤全權ノ建設的態度及本官カ石澤「ハルト」覺書締結ノ前後ニ於テ日蘭關係ノ友好化ニ對シテ示セル精神ヲ信頼シ今回モ亦同様ノ精神ヲ以テ機微ナル兩國關係ノ打開ニ努力シクルモノト信シ或程度ノ讓歩ヲナストモ成立スヘキ協定ノ内容カ蘭側ノ立場ヲモ或程度認ムル合理的ナルモノナラハ之ヲ成立セシメ以テ日本トノ正面衝突ヲ避ケント欲シ居ルニ起因スト認メラル然レ共日本カ其ノ原案ノ如キモノヲ遮ニ無ニ「ブツシユ」セントスルモノナラハ之ヲ拒否セントノ腹ヲ充分固メ居ルハ「ホ」トノ會談及其ノ後要路者トノ接觸ニ依リ益々明カトナレリ(累次ノ代表部及本官發電報今一應御熟讀願フ)

從テ我方カ強硬態度ニ出ツル場合モ將又遷延策ニ出ツル場合モ蘭側トシテハ小林全權歸朝後既ニ七箇月ヲ經過スルモ切リノ付カサル如キ會商ハ打切ルニ如カストノ決意ヲ固ムルコト當地ノ空氣ヨリ見テ想像ニ難カラス依テ會

商ヲ繼續スル爲ヨリ云フモ往電入國企業ニ關スル代表部
妥結案及通商ニ關スル代表部案ノ如キモノヲ以テ妥結ヲ
圖ルヘク(之トテ仲々簡單ニハ纏メ得サルヘシ)努力スル
外ナシト思考ス又本官本省在勤中我方原案ヲ作成セル經
緯ヨリ云フモ何人モ右ヲ其ノ儘受諸セシメ得ヘシト考ヘ
タル者ナシ

二、尙重要物資中對獨再輸出ノ對象トナリ得ルモノニ對スル
蘭側態度ハ往電第一四一號ノ通りナルカ「ホ」ハ本官ニ
對シ本件ハ蘭側ニ取りテハ利害ヲ超越スル深刻ナル問題
ニシテ日本側ニ於テ砂糖其ノ他ノ買付量増大又ハ組合問
題ニ對スル斡旋等ト關聯セシメテ考フルコト絕對ニ不可
能ナリト確言セル次第アリ從テ本件ノ満足ナル解決ハ結
局往電第一四一號ノ通り帝國政府ノ蘭側ニ對スル保證ノ
程度如何ニ拘ルモノニシテ我方原案固執又ハ威嚇的言辭
位ヲ以テ解決シ得ヘキ性質ノモノニアラス
三、右ハ微力乍ラ本官カ今日迄最善ヲ盡シテブツツカリタル
結果到達セル見透シナルニ付慎重御考究請フ

558

昭和16年4月2日

芳沢日蘭会商代表より
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

錫・ゴムなど五品目の対日輸出問題に関して
は譲歩の余地なしとの蘭側態度について

バタビア 4月2日後発

本省 4月3日前着

會商第一四七號

往電第一四一號ニ關シ

三十一日石澤「ホ」ト面談ノ機會アリシニ付錫以下五品目
輸出問題ニ對シ更ニ說得ヲ試ミタル處「ホ」カ本件ハ屢次
説明ノ通蘭側トシテハ絕對ニ妥協ノ餘地ナキ問題ニシテ若
シ日本側カ保障ヲ與ヘラルル場合ハ完全ナル保障ニアラサ
レハ満足シ難キ處最近ノ日獨關係緊密化ノ傾向ニ鑑ミ日本
側ニ於テ斯ル保障ヲ與ヘラルルコト至難ナルハ豫測ニ難カ
ラス依ツテ蘭側トシテハ既定方針通り對日供給量制限ニ依
リ對獨供給阻止ニ努ムル他ナシト考ヘ居レリ從テ樞相及外
相來訪ノ際本件ヲ持出サルトスルモ蘭側ハ態度ノ變更ハ
不可能ナリ尙其ノ後「ホ」カ入手セル情報ニ依レハ日佛間
ニ「ゴム」三萬五千噸ノ供給ニ關シ合意成立セルコト確實

ニシテ遺憾^(遺憾)乍ラ從來ノ日本側説明ヲ以テ納得スル能ハスト
洩シ居タル趣ナリ

~~~~~

559

昭和16年4月2日

芳沢日蘭会商代表より  
近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)

錫・ゴムなど五品目以外の対日輸出に関する

蘭側態度について

バタビア 4月2日後発

本省 4月3日前着

會商第一四八號(極秘、至急)

貴電第六七號ニ關シ(日蘭通商問題ニ關スル件)

一日部員ヲシテ「ホ」ヲ往訪セシメ我方ハ討議中ノ錫以下  
ノ品目ハ未定トスルモ其ノ他ノ重要物資ニ付テハ蘭側ハ對  
日輸出確約ノ用意アルモノト了解スル旨申入レシメタル處  
「ホ」ハ目下五品目以外ノ物資ニ付對獨再輸出ノ懸念ナキ  
ヤ否ヤ懸念ナシトスルモ日本側要求量カ當初ニ比シ増大セ  
ルモノモアリ供給餘力アリヤ否ヤ等ニ付檢討中ナレハ確言  
困難ニシテ鍼力屑、「ボーキサイト」、「ニツケル」鑛、「マ  
ンガン」鑛、「ピッチコークス」屑鐵、「モリブデン」鑛、

「クローム」、「ウオルフラム」鑛及高級雲母ニ付テハ右檢  
討終了後ナラテハ何等言明シ得ス其ノ他ニ付概論スレハ大  
體「タンニン」材料、工業鹽及「キニーネ」ハ差支ナシト  
思考シ居レルモ錫鑛石、規那皮及鑛油ニ付テハ増量ノ承諾  
困難ナル旨内話セル趣ナリ不取敢

~~~~~